

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 JAPAN

東都繁季記 夏

三

ヲ 6
3375
3



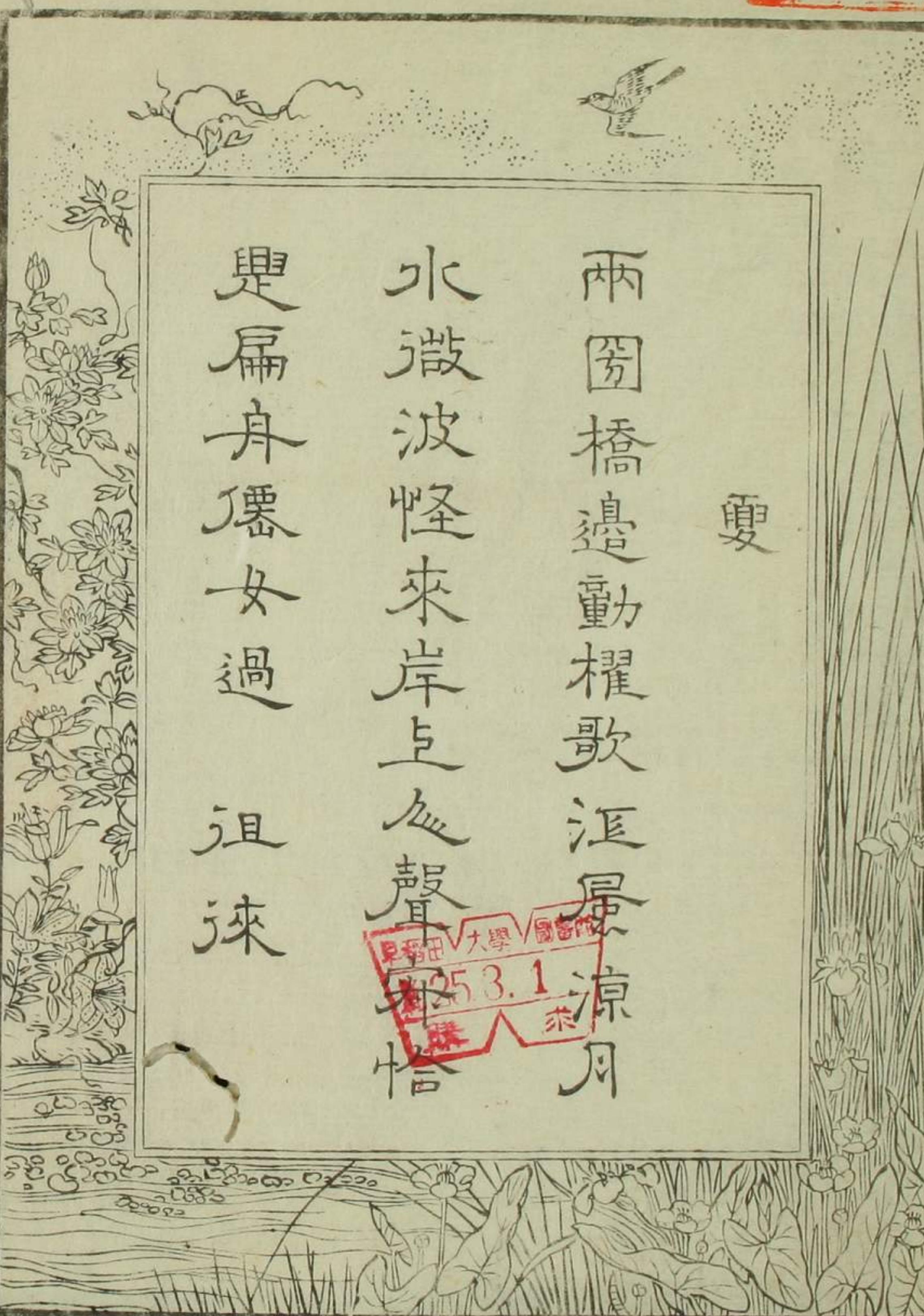
門號 3375
卷 3

雙

兩旁橋邊動櫂歌汎景涼月

見書田 大學 353.1

是扁舟僕女過徂來



江戸歳事記卷之二夏之部

四月

朝

同

日

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

望

晦

朔

望

既

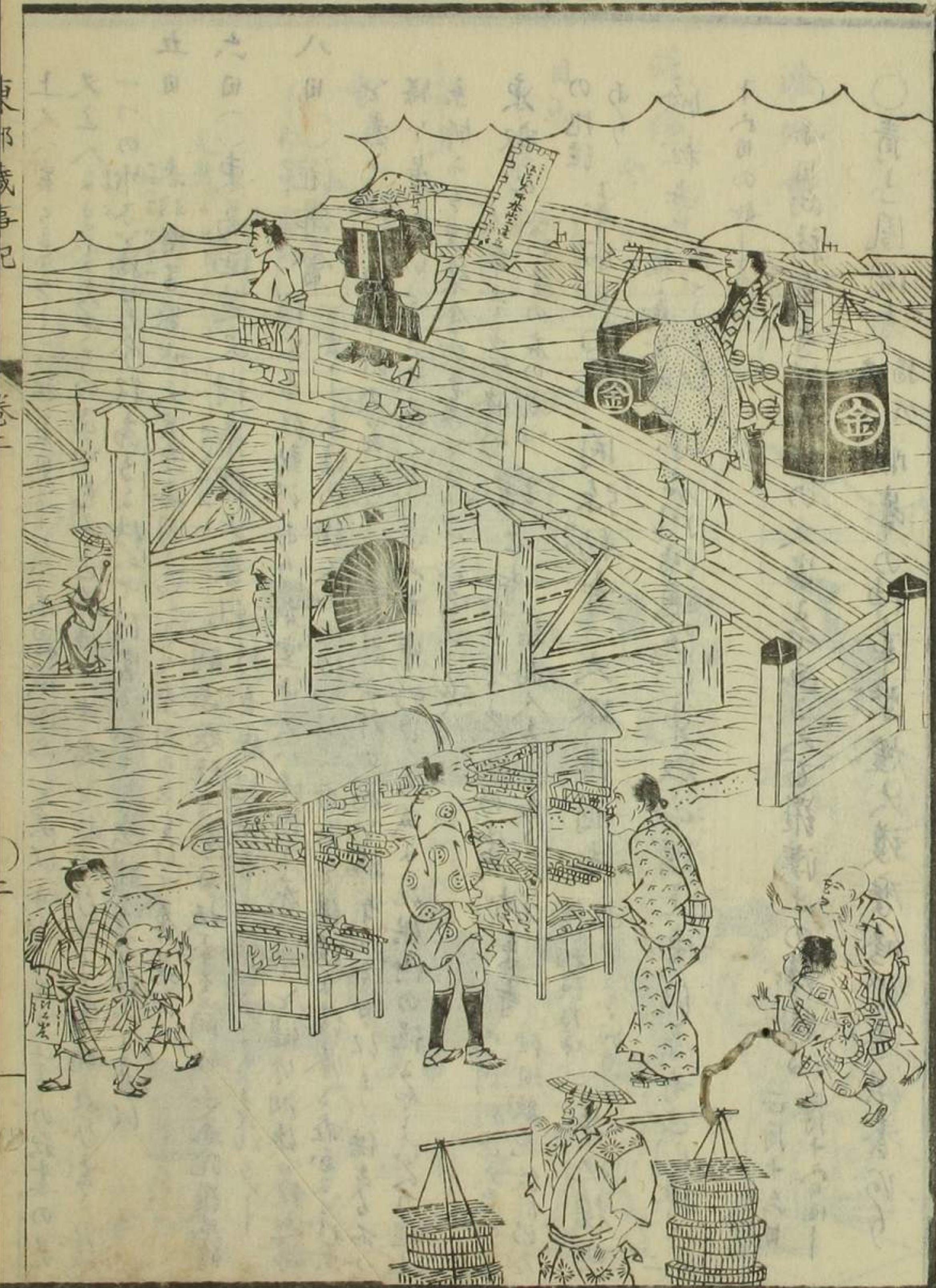
望

晦

朔

望

既



上人へ告ぐましとニ私夏見一ノク不思議ふみじ奥沢よりんとすの教妻の夫
又と人よまくみてゐゆとをふと人情ミ十念と授ひひしよ靈魂森ひむの後
一つの神子を除せり今だ高きもはくて什宝とし七月法事拂の教法入る

五日○赤羽有る家水天宮を毎月とくとも季月をもけて奉集れ

六日○東葛西芝又村帝釋天祭礼別題經る今日板本を閑帳子巻陀羅尼修

八日○灌佛會諸宗の院勅あり本堂中又ハ境内より花の香と儲け経像の軒迦佛
と煮て佛より供一升の花をうけ又外より花と拂たり今日に至り供ある所の
様と号していふき又花くそくし年中より大威や花供持の儀をもとめり但し
京師より涅槃會の參予をうてあらゆる

東収山法華寺を修め増上寺本寺を拵山内

二のきの左の方へ増上寺諸高人多くあり

法華寺已計別院大窟敷出

往來散花經に於て

の儀法あり本而圓向院同弥勒寺大塚護國寺渡持院庭中

十六日

の如

海松寺輪龕と開て小石川傳通院○東収山増上寺法華寺山門閣く二

周

○小日向新奥寺法花經の文字まで画る五百羅漢木の像樹る正月十二日

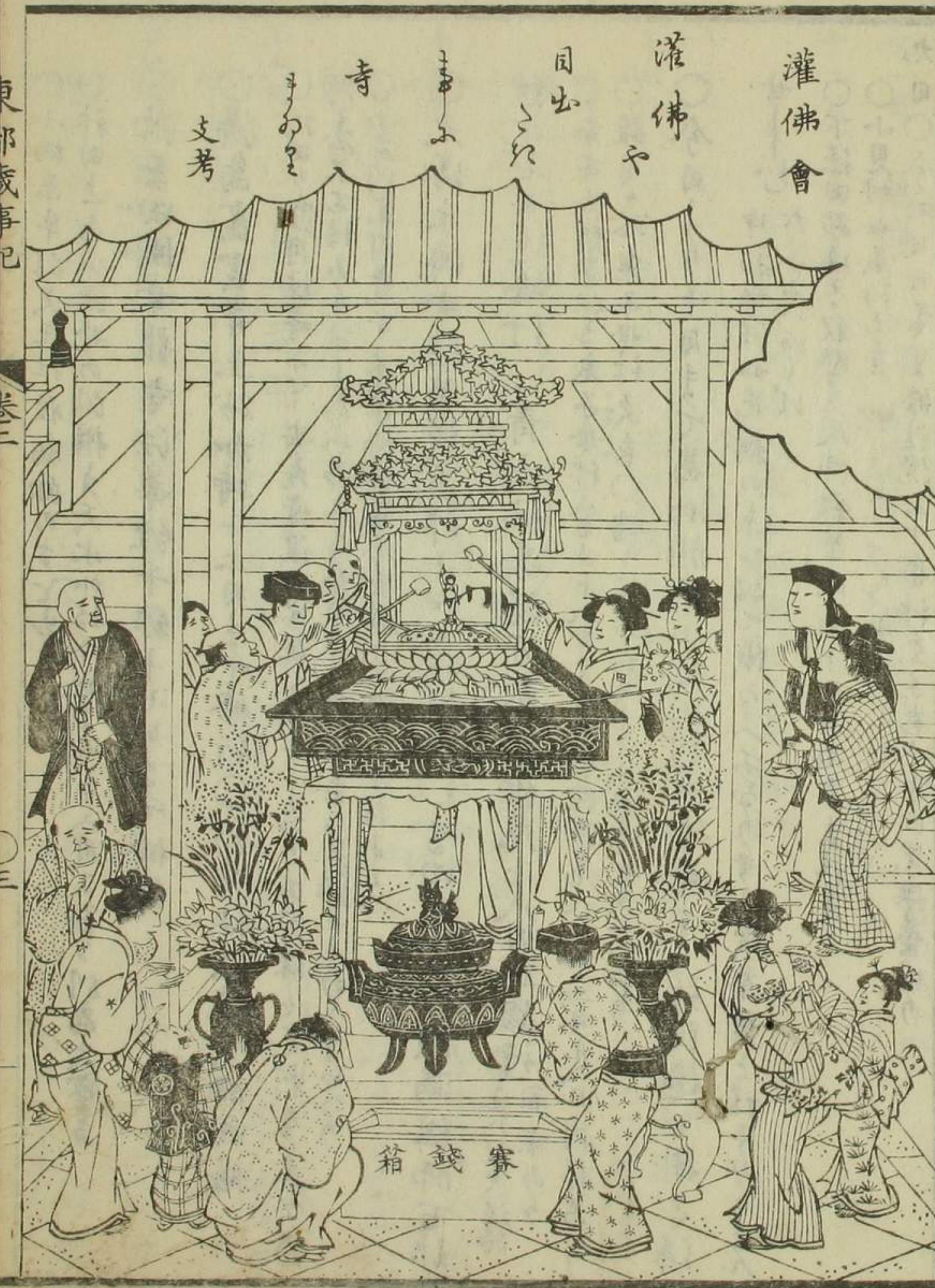
正月十三日

○青山圓圓寺高山順峯の神車紫燈大護摩修め速供養あり

正月十四日

○青山圓圓寺高山順峯の神車紫燈大護摩修め速供養あり

正月十五日



○小柄原牛込天王社役病除の事と申す

○神田上久の源井の改辨才天水か持今日より十五日より別處大鑿す

○涉糸田園幸龍寺法華經千部十七日まで修行

○湯島靈雲寺土砂加持十二月まで修行○新井林照院茶師開帳

○川田う窪月桂寺少々安産守護の宝珠と辯せしむるの宝珠と足利吉氏公乃
所未不持ありとくとく多も前より約半けへ辯せしむるより

○小石川光因寺本木藥師開帳今日英十二日も開帳あり

○大塚本傳寺法華經千部十四日迄修行○高田本松も願滿祖師百部

經十七日迄修行○青山仙壽院万巻陀羅尼十八日迄修行十八日又祖師
○本不出村本仏鬼子母神八日より十八日まで万巻陀羅尼八日十二日十八日内拜あり

○雜司ヶ谷鬼子母神又衣○幡ヶ谷不動堂十八日まで内拜あり

○今日より十月半そ葛西領東小松川村石通寺ア弥陀像と掛く辯
セム中野姫法姐厄縄の糸を以て織りてあり世は曼荼羅とねむれどもまえ
たゞ小ハシビ

○下緑田妙福ち駆轡上人伊勢生開麻十日迄あり奉請事

○小見村秋辰御奉書蛇すけの古と出す

九日○今朝の日日落里修性院三十番神奈子巻どうに児供養あり

十一日○橋場鈴目神明宮太々神樂無行昨日麻布坂下町
高座修有矣

十二日○车西表町本之も祖師衣船

○本而靈山寺阿弥陀經千部廿一日まで修行

十三日○涉糸東光院結坐山王祭

十四日○凌草寺十万人講寶塔供養於本坊山有あり一山熱出仕にて勤むるの
業供養のみにて同六年本堂の後又石の二層塔と立多きより今日本堂にて

讀經の後この塔のあみて焼香あり

○今朝日二十九日頃本賣村西光寺親鸞上人御影坐開帳都トより奉請事

十五日○山谷玉姫稲荷祭不動院持產子の場所神輿獅子改と波モ境内僅ナリ
○涼層の結夏又安今日より始モと云七日十六日まで終るモと解夏又九十日禁忌で
外よがを系本患類とやかんゆと歎ふがななりとモ言輪平町移居家

十六日○杉の森稲荷祭礼新林本町より神主小竹氏產子新林本町新林本町延長
町二丁目庄介屋長ひ御屋敷等なり隔年往り物波出
せうる近年多るなり

十七日○野州日光山御祭祀の日より諸侯紅葉山東叡山御官へ御案詣り
諸寺社境内御宮法樂あり又ハ御神影と辯せしむ上此ハ庶人集結

東都處事記

増上寺安國殿 池糸三社権現御相殿 青木 同 躬寺 源空寺 青画 同 躬

堀端松平西福寺 同 同 不 東漸寺 同 湯島圓滿寺 同 妻戀福薙御相

殿 青木 王子權現社地 高田穴八幡宮社地 青羽町養玉境肉 青木

源川三十之間堂御鎮座 青木 本石靈山寺 青画 木下川淨光寺 青神

海傍正西久保大養寺 青画 楠田久保町坊 新 伊藤氏 青画 岩川海晏寺

山縣あり 西久保大養寺 青画 楠田久保町正伊藤氏 新 岩川海晏寺

后山麻布廣尾天現寺 トタル 経就大神宮社地 ヒアドリ 余傷寺 神主宣成

文化十あまり二年六月十七日池糸三社権現御相殿と内裏御奉りて

○増上院本院御帳 ○源川東海寺 ヨウカイ 本院御帳 ヨウカイ 本院御帳 ヨウカイ 県慶

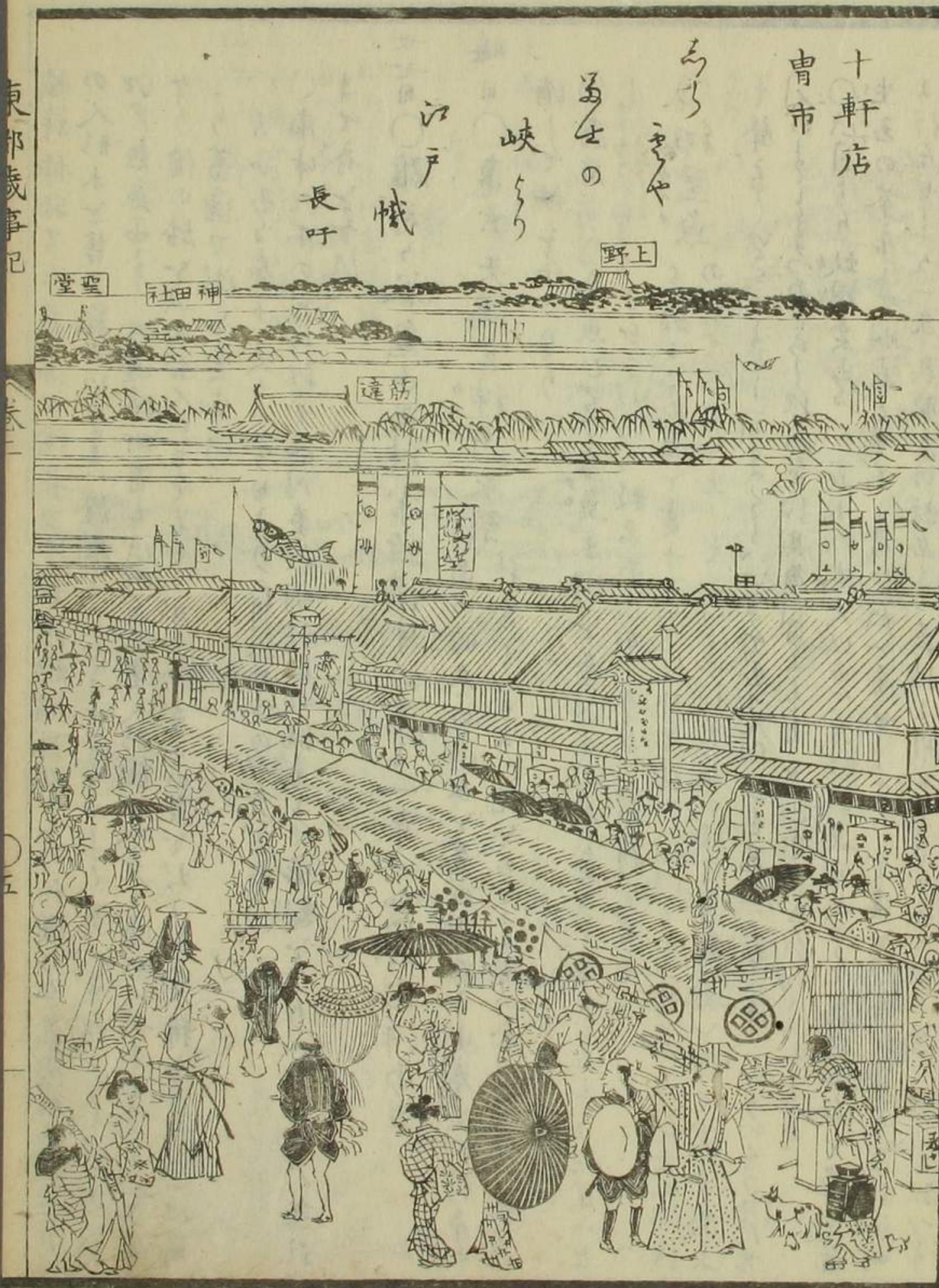
○當月仲旬日定ら ハシメ 槍鑿掌飯 ハシメ 於て薬品會あり 薬品 重なり是の

產物医術の要器よむ近畿江府より医家の私款のこゝに寄ふ也

廿一日○神田明神社太鼓神樂無行 ハシメ 横殿の内へ舞臺と備け社あへ候发

廿六日○今日より六日間日近胄人形萬蒲 アヤメタチ 刀幟の市立

場不ハ三月の雛市又同く 程 還小屋と搭甲胄より胄



廿七日○難波う谷鬼子母神常経講中の為より一年一度の内年あり

毎日○亀戸天満宮神御衣祭
西の時冬の御衣と夏の御衣より更奉るの儀也
神あつづきよ一炮とのことその余の神炮ハ御られ

○ 岩月より金魚ひざひ麥魚木術と賣あるく金魚よもぐんらんちう二尾かな
尾小手子ハ何ともさらさまと教ふあり而し金魚を教准と育先

○幼壁魚 东近よこの魚と賞するナ化邦ニ猪モ相附トリ送ル而味ひ美ニ鄙矣
の者も亦價起步テ是ヒ求む首夏の頃より鮮魚ヒ擇テ街ノ商ノ

も聲高くひきよ／＼まく、ひきそめん初うを芭蕉 大勢の手へ一本うをうみ風雲
人のまくしもくわくらうれうをひ其角／＼よもまくまくわくらうれうを素手



物景

生の声と出でて賣歩行きまく人美おもよみてば年販店大それより
毛皮を賣ふうえの始める由にア塵松とひる紙よりえり

○南のあたり堀留の園扇同底みてうちもと製し南よりおひく

杜鵑

大く立夏をもてより啼初る聲て江の邊もろみをもととぞもとを

三けの方ち樹林解きあらゐを多く又啼す早

小石川向山の辺

初とひより初の時をひらむる帰す因難同り谷に谷邊

大番町

後河臺 沢原ノホ 神田社 谷中 芝居上

杜隅田川の辺 根岸里 根津辺

牡丹 ○ 紅いふく白八連 ○ 源内永代寺 近年 谷中天王寺中善明院 庭中四角の

島村百花園 深井桂木屋 久山某庭中 その外而桂木屋あり

上小沢村玲木某園中 三百余品あり大本多一片鄙とひ

○ 痴う原牡丹屋あり

と今か

杜葛花 ○ 立夏より二

木下川淨光寺 茶師 池中八橋アツマモリを年社茶のひ

と祭せり 吾妻森 八橋を祭せり

寺島村蓮花寺 同百花園 根津桂現境内池

藤 ○ 立夏より十二三日め以降ハ日限清て 亀戸天満宮袖池の傍

樓門の左衣ふ棚あり 池水より入る事あり

定より一年よりそ大は連速あり 大智寺より境内坂本因光寺世俗放てとひ近年か

小日向若狭谷侍ぬち佐五郎 佃島住吉 榮盡八まん室右名不かれとも今か

郊の花 ○ のほ 同黒辺 奥澤九名佛の辺 巣鴨庚申塚より王子へ出る道

芍薬 ○ 小波 寺島百花園 百余本

深井桂木屋

五月

朔日 ○ 押上普賢井用帳手巻普賢手枕引正月の如

○ 柳島妙見宮用帳 ○ 浅草本法寺万巻陀羅尼 大二月まで修行

五月 ○ 端午御況儀諸侯御登城棕献上有貴賤佳節と祝キ 家軒端は菖蒲
飲も又角黍柏糕と製モ小兒菖蒲の戯まとかす ○ 或家ハ又かり町家もも述七方以下の男子
ある家は戸外は威と立宵人形小拂。又坐蒲のやりと号して家中へくるハ全世の若易人紙にて
御の形うり竹のそよづけて懺と拂ふ事多也。先も全世の事とし。先世の恩とし。先世の恩とし。男児
と称するの方も下た。东故の風俗也。といひ初生の男ふのをあひ、初の吉向とて祭人
○ 貴族今日より麻の絣と弟て八月廿日より

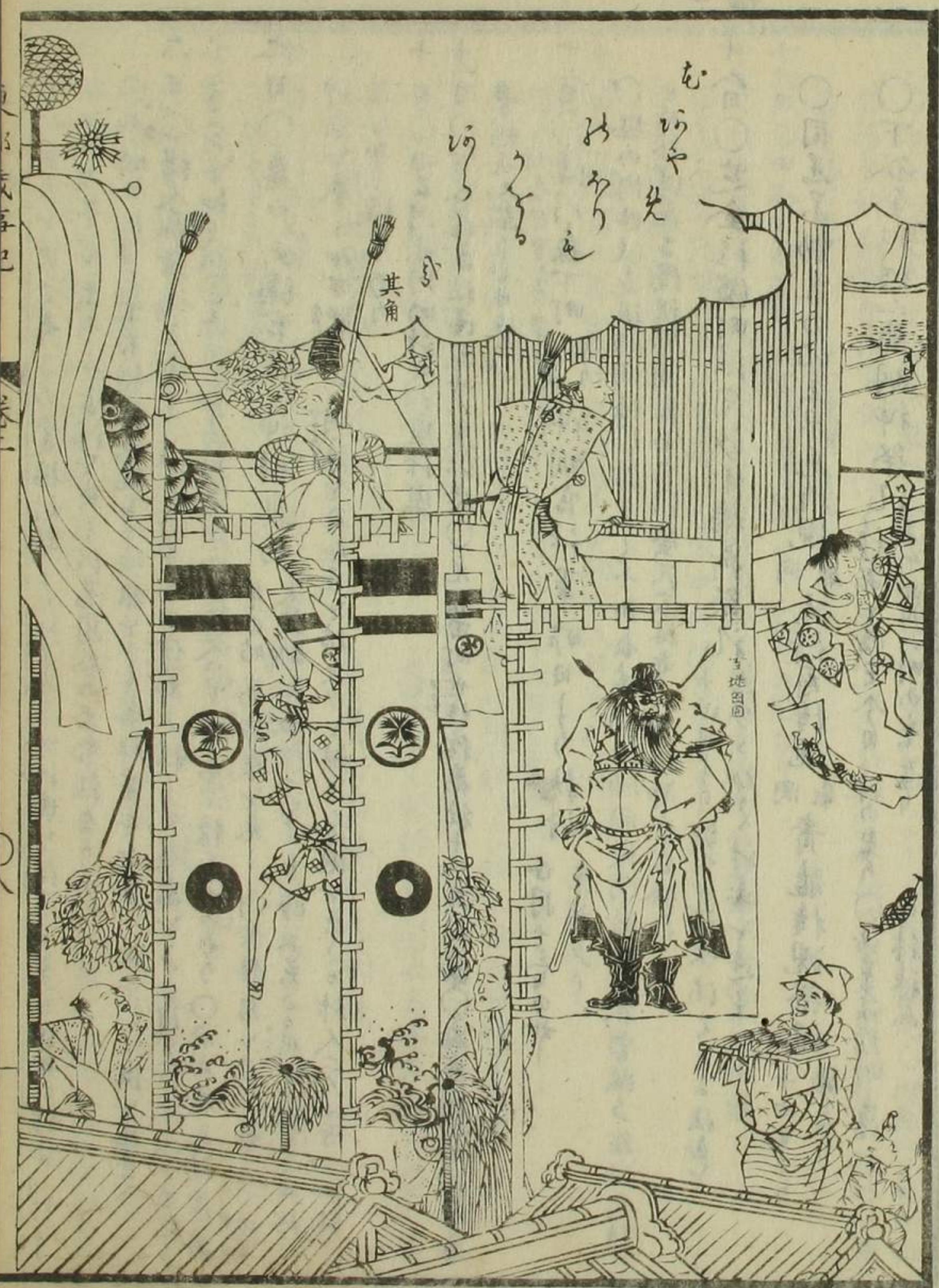
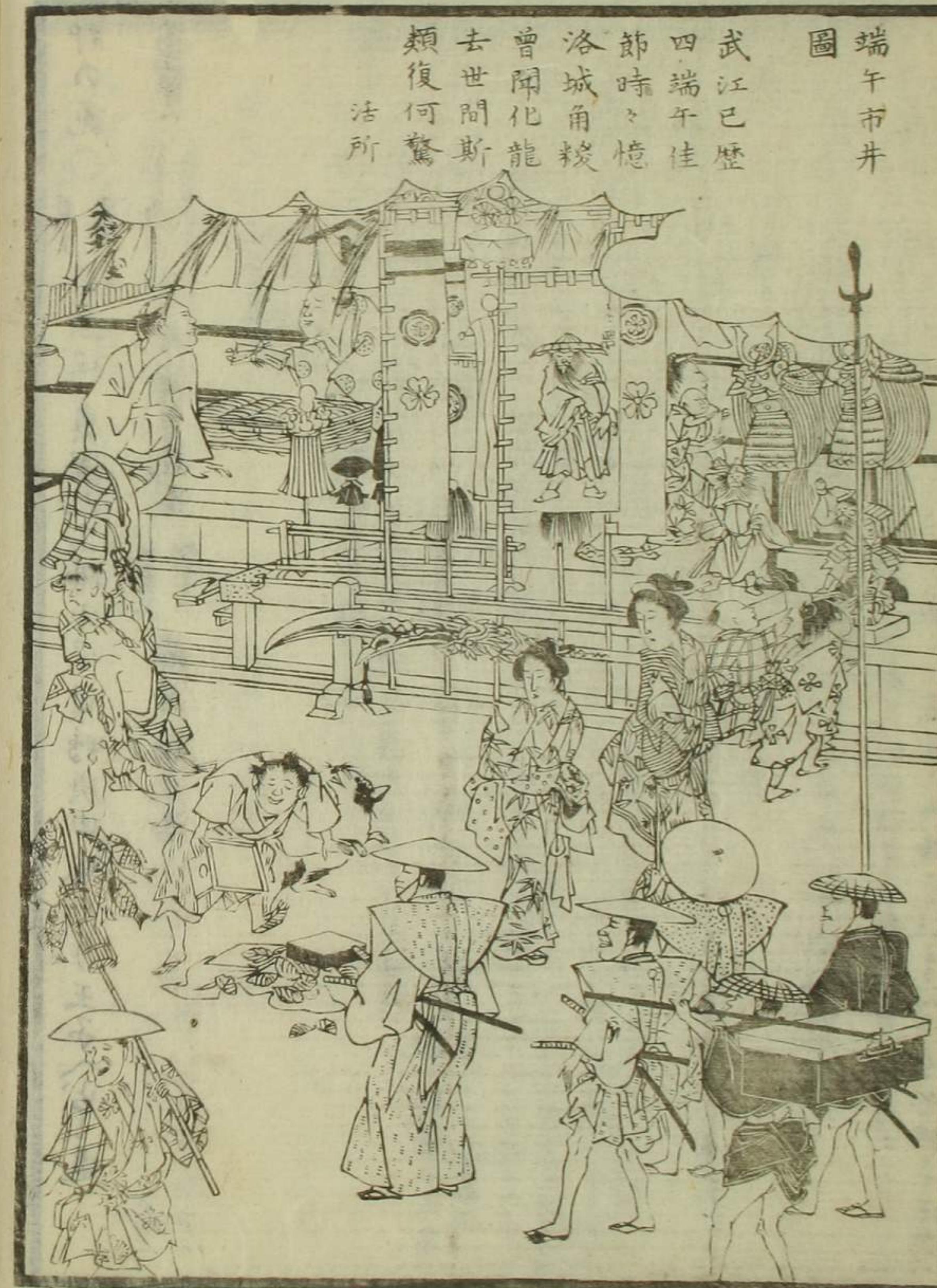
峡より戸懺長叶「子ハシタナ拂り懺ふ子ね筋不秋

○ 同墨太鳥明神祭祀相撲興行 別當 大聖院 ○ 池上本門寺祖師更衣

○ 府中六所明神祭祀神祇波氏 今夜子刻神燈并々産子の家へ詣次のとおり
減して園松主御旅更替せり奉幣経て還願の

端午市井圖

武江已歷
四端午佳
節時々憶
洛城角黍
曾聞化龍
去世間斯
類復何驚
活所



の時毎火と焚き産子の掌挑灯點く焼くまで神輿と供奉も翌日因極の後より
祭祀の次第貨車少て古れと失ひ先府外の大祭礼なり

○今日鶴日向不動院本院モ塔頭ども者群集モとよ水引て燃と始まリ

六日○諸人菖蒲湯浴モ○今日婦女子の佳節とぞて遊樂とよびせても未その様も
とこうと初め○歲月、年の月より、年の日又、廿二日而も終焉をあり○麻布度尾移行祭

九日○龜戸天満宮太鼓神樂興行年の時萬歳樂と奏し御食幣帛を奉り鑿とて神官

神樂と奏一四万匁^多とて胡簾を奠ひ弓と持太刀と佩き白袍を身に着け人二人等方より弦とゆきほりあり

十日○小石川氷川神社座神樂

十一日○下谷稻荷社湯花坐神樂○元坂田町世継稻荷社十八夜神樂○麻布橋町妙善寺
摩利支天祭十七日迄

十二日○源川森下町^{六間}カリ神明宮神事昨日より執行正月十二日の如

○堀の内妙法も祖師用帳○油まじぶ店長遠寺祖師用帳○雜司^ク谷宝城ち祖師内絆

の外法花も院祖師用帳あり○螢沢宗林寺^{シテ}祖師舍式修行

十六日○芝金杉濱町守汝千穂荷祭礼^{十四日より}縁より社赤浦^{ミズ}より假屋と

十七日○同恩不動寺の地主早尾権現^用大行司権現^用青龍権現祭礼^{十四日より}縁より

○下谷金杉村三島明神祭礼^{十五日より}縁より今田^{ミタ}村の幸^{ミツ}○涉糸浜町^{ミツ}宿

十八日○今戸八幡宮三千人座神樂○山谷正法も毘沙門堂^{チキ}子卷陀羅尼○柳島妙見宮用帳

○新吉越安盛寺妙見宮内絆子卷陀羅尼○白令妙因寺妙見宮星^{ミツ}○篠上明神神樂

○青羽町田中八^{ミツ}まん祭神樂興行

十九日○田中美成院聖天宮神樂汝千^{ミツ}らん^{ミツ}の内^{ミツ}より

二十日○小日向^{ミツ}上水端氷川神樂汝千^{ミツ}らん^{ミツ}の内^{ミツ}より

○清瀬妙^{ミツ}化明神^{ミツ}妙^{ミツ}青院持○谷中妙福^{ミツ}日親上人像用帳

○妻忠^{ミツ}作神乐毎^{ミツ}日

二十一日○雜司^ク谷鬼子母神堂子祁^{ミツ}女八日より修行^{ミツ}今日万卷陀羅尼

○小柄奈日^{ミツ}文也鬼子母神^{ミツ}十七日より十九日まで修行内^{ミツ}年あり

○本不出村本佛^{ミツ}鬼子母神内^{ミツ}年○本不出^{ミツ}田中^{ミツ}奈本^{ミツ}上妙^{ミツ}鬼子母神素用帳

○油善幸^{ミツ}柏原明神用帳子卷陀羅尼○大宮八^{ミツ}まん宮神樂○本^{ミツ}薬場達^{ミツ}院^{ミツ}妙^{ミツ}神樂

廿日○平井聖天宮祭禮^{別當光明寺}大般若修行^{ミツ}茅場町薬師如東用帳

廿一日○江戸大師^{ミツ}の傍平^{ミツ}らも西^{ミツ}野井^{ミツ}熱^{ミツ}持^{ミツ}毎月とくも西^{ミツ}九日から^{ミツ}行人^{ミツ}一

○油善幸^{ミツ}柏原明神用帳子卷^{ミツ}陀羅尼○子佐山^{ミツ}町^{ミツ}稻荷神樂

○源川砂村源川^{ミツ}志^{ミツ}演^{ミツ}稿^{ミツ}荷^{ミツ}祭^{ミツ}宋^{ミツ}燒^{ミツ}護^{ミツ}摩^{ミツ}修^{ミツ}行^{ミツ}あり^{ミツ}妙^{ミツ}村^{ミツ}の無^{ミツ}病^{ミツ}有^{ミツ}り享^{ミツ}保^{ミツ}乃^{ミツ}以^{ミツ}台^{ミツ}今^{ミツ}の有^{ミツ}あり^{ミツ}と^{ミツ}村^{ミツ}の無^{ミツ}病^{ミツ}有^{ミツ}り享^{ミツ}保^{ミツ}乃^{ミツ}以^{ミツ}

宋焼と無ひすありしより今よ餘きを村商人市とぞせり
大元の少系況焉其のあは(大元の無事の)亦及ばず

廿三日○沙奈親王坐のあひて廿三夜の候投る○赤坂御町を終る勢を閑懶
女官○本布押上着賀英嗣帳十郎経修江多丸○難司う谷家傳も手卷陀羅尼説法

○ 沢草大川 捧手奉花ハ戸町角ニ地蔵の石焼 畏念佛修祈
○ 冷う森厄神祭廿二日より执行の如

○南八丁堀御前後河原はおどり宿處跡のやれと牢をまつてより群集してはれとく
列あむ門寺太ら巫の申禁也ア

○小石川半天紅茶
聖母三日境内にて織りと催毛

○陽弓清吹復會カツガイ、ソウクワイ古板結界上作ヒカルノウエイジヤクセキガタノウエイ非多結改ヒタクワカルノウエイ

○楊弓結改惣會 則百事の内又役二十日結ひ改るる月と九月の廿八日
奉又二度與河毛との手に取られ、山王宮義院より下すもの非葉ハあめ辺の高樓子集り
務勞と争ひ勝りてくらべ定て江戸一ヶ年改一書失貢二百をあり申る而六十本以上モ
朱書き百本以上モ泥書き百本以下モ金匱百八十本以上ハ大令恩との所を付候事
之へ貞享八年内刊する所の今井一津う作の楊弓射札奉れ奉と因て妙もへーある事も
天文十八年述作の楊弓射札蓬矢抄ともへる。注解と加へりて之を記す也。此の
貞享のひ江戸射場橘町二丁目治本三意一計湯島天神門前柏原家主東より寛延
の江戸席子ゆき結改場十ニ点と奉りてあり。幼少不記也如
△下タ町ハ湯島天神本郷町芝赤羽根改季羽應△この木ハ飯田町桂風半近義好

廿二日○辛卯王滿文十六題詩乐無窮

廿八日○同憲不動尊祭禮

廿四日より纏うるを
廿七日よりかき詰り貯

あはよきくく載たまふくと

○卒达原町報恩寺不動院圓帳○狗迎追分裏西
○入谷森宝院鬼子母神子卷院羅尼○白金土筆

○芝居曾我家
中古まで、今日樂屋よ於て参りと執事ひしとり。今ハ多哉
物々と落納く後樂屋よてまつと詫參りと云ふ又大ありゆく

折縫き興行する時も例年某城主社の作事と仕切場とも多く居るが都
寄舞妓も毎度お我お詫とね云々仕組わ左報賽カツコウの為今日こまくと多くなり

○あふ橋の夕涼今月より始り八月廿八日よ終る每よ東屋者せ約新店の

やて今夜より元大とよりは逐物貴賤群集と
マイヤ

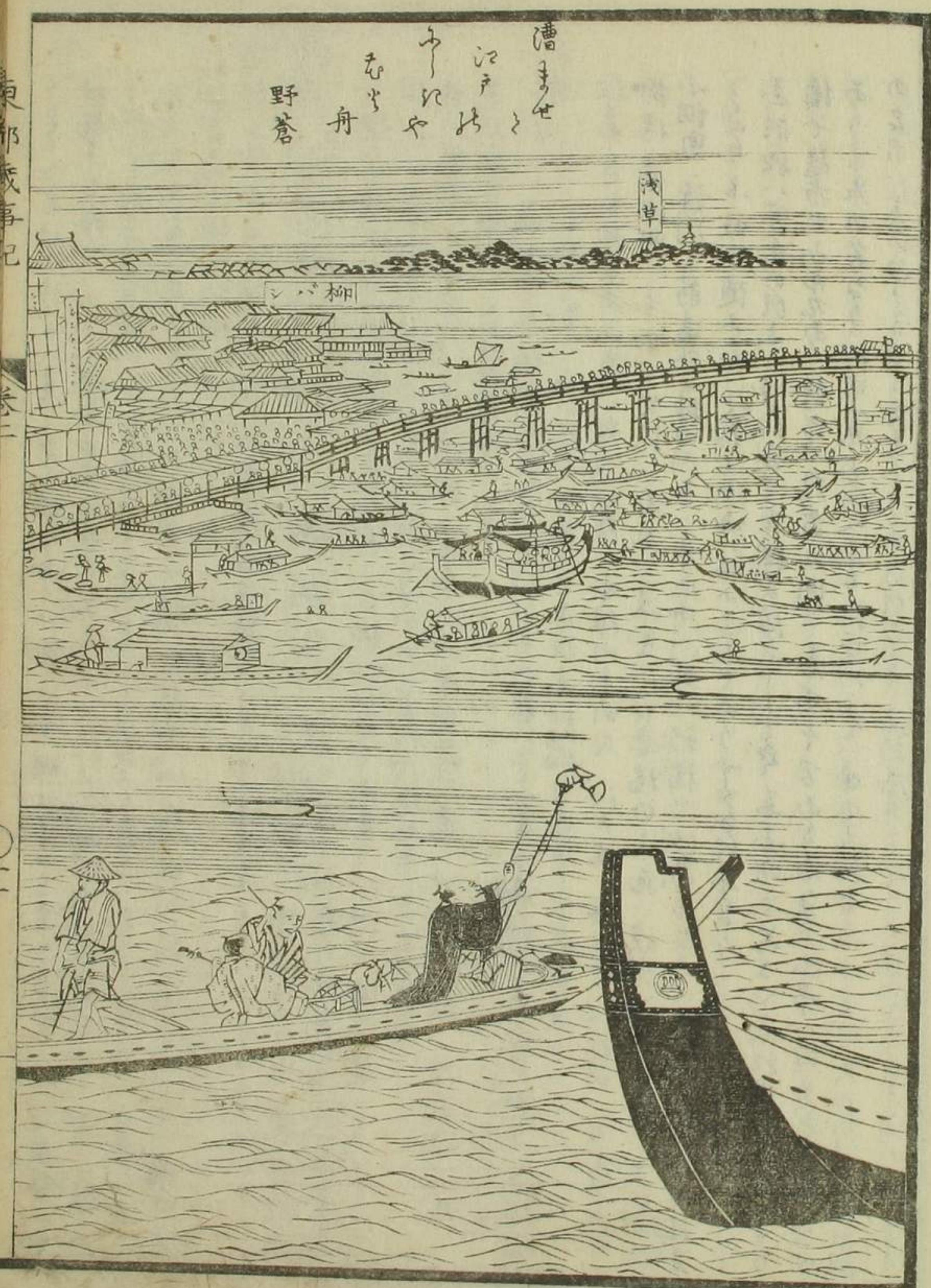
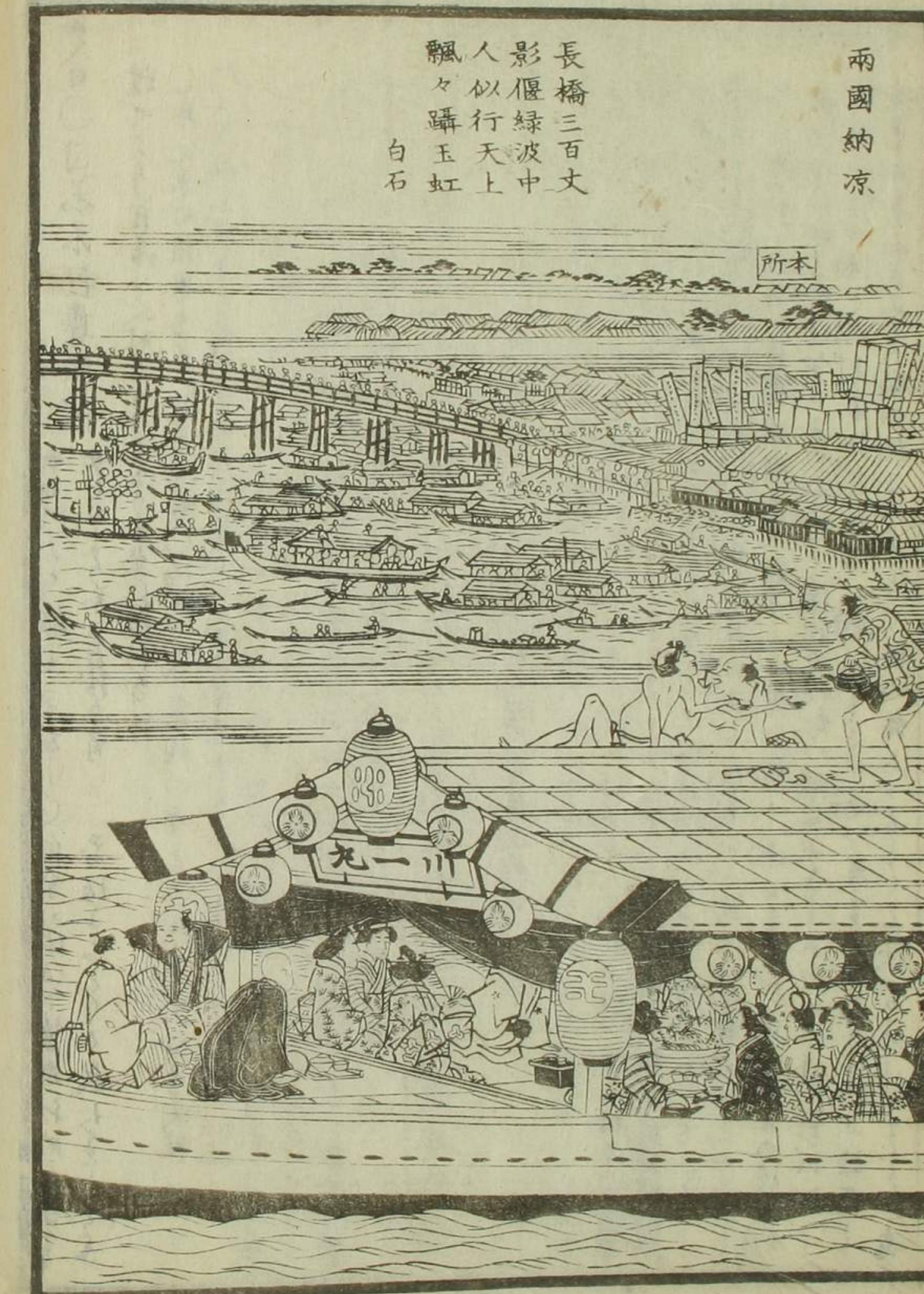
ひゆちの畠原の中ふも納涼のほの涙アシテ、僕はおたゞひすくさ方へあつゝあぬ
の家ゆきぬ子園の茶店櫛、歯の如くひひ寄て喝ふを弱女、まゆ小粒よ、医士額、雲の膚、鶴
緋小透りて涼一也とそらうもアトドリ、く人渺み、乳と様へ頬、戲童、戯童、縁、傀儡、猿
扮、戯を余山野の玲禽異邦の奇獸、やもむ、近枝の觀物板、牌とうげ噴、内のむ、キモミ
演史土弓射戯笑詫、莫頭舗相ユ、冰家の麻生果石花葉、かくも、有らばとつまく
かく楊上の往來ハ肩聲、浪砲轟く然とて雷の如く、御日も音ひけ、多店の櫻の灯
教ふ歩ふ映し、晴かさまの、船、一桂の桃灯、波よ、少くめられて全移、紙、紙翻
絃寄一時ふ漏く、漏く不動、忽夜雷の礎に響きて、首と拳まゝ、烟花空中、小鳴發
如きぬ、霞み月、空、躰の翔るがまく、風の舞ふ、あとく、子状も、怨叶まどい魂

兩國納涼

長橋三百丈
影偃綠波中
人似行天上
飄々躡玉虹

白石

所本



うもくの凡て皆人持とゆく袖とあく一擲手令惜まざるも實より萬ふ宇宙最第一の
壯觀とも謂ひべし。○鍵屋御庭の花火、今より又小みに差て黒物と南と作す
う候。○紙と天和の波の花火とも云ふ。○あはれむる御用よりの喰淨。芭蕉。一五〇
も大写も無れ。其角「かへり」と様子や様子み全。○あれ人數未かれハ多き。全
可食處一花火の角のみ。高企。

時日○今日より而く通士集會。六月一日のところをも。

納涼○兩國橋辺。並り。大川通。隅田川。不忍池辺。六月のまよりハ莫寒より
と候。○街の商人多く新の娘ひつも又より佛の縁日。夏と冬としく

植木の余商人にて多。○は戸店。戸主。御代の下。其の梅翁。

通り町筋。上野馬門。赤度小路。山下。涉葉雷神門前。谷津の外。市谷寺門外。

芝作的官境内。赤羽根川堀。

船遊山○支ふより涉葉川と第一。之は船の舟。沙子捨造尔。

百艘と舉く今。次第少減して。本根舟。名曰。のと。多く在り。

松高。日本橋東西河岸。鞆町河岸。本根町。西門。江戸橋。坂戸町。仲勢町。板橋東西。

柳橋。東洋町。本所。同辺。石原。涉葉川。官妻橋。本丸。後炮洲。靈巖。見浴町。辻

小細町。深川。筋遠外。仲田川。牛込。門外。鶴橋。深浦。あり。扇形。赤根。綠樹。牙

木。木好。隨ふ。二丁と称す。舟。百艘。極り。○東水丸と。と。太糸の路。と。より

續て越布丸。布丸。越布。ハ社。發丸。間。と。毫。本。を。方。有。多。あり。山。布。ハ。社。發。八。間。春。西。二。間。

あり。其の名。ナ。神田。丸。と。ア。モ。神田。川。と。一。番。の。大。船。三。年。より。二。丁。立。

シ。禁。せ。ナ。江。源。う。世。キ。該。よ。結。牙。每。ハ。時。曆。の。波。本。橋。華。屋。利。多。見。付。の。玉。御。効。室。系。

ト。云。者。多。と。造。り。押。送。り。の。長。古。と。久。り。の。身。と。業。研。の。形。ふ。経。り。魚。荷。と。積。て。押。上。て。

ス。一。是。と。考。へ。つ。づ。り。の。身。と。吉。船。と。り。へ。う。り。た。と。ち。と。さ。舟。と。云。り。を。車。結。牙。

二。字。と。用。由。物。の。オ。よ。狀。似。る。也。見。う。と。か。り。

時。か。ハ。ナ。土。司。ち。一。め。の。舟。遊。ひ。ミ。角。く。う。舟。を。船。起。座。寐。タ。ス。み。全。

○明和八年より中洲。又酒肆。茶店。多く。舟。の。邊。そ。て。花。火。と。あ。け。て。あ。い。や。も。の。ほ。り。出

る。の。憂。ゆ。う。わ。く。て。寛。政。の。始。公。より。の。少。少。ゆ。り。て。お。拂。ひ。と。か。る。そ。の。波。の。納。涼。の。身。ハ

舟。忌。蘆。水。の。筆。と。よ。東。御。く。る。ぬ。墨。一。覽。の。画。卷。あ。ふ。あり。

○七月より冷。か。ひ。太。向。日。屋。屋。賣。あり。○鬼。打。う。き。つ。き。賣。あ。ひ。

○枇杷。桑。湯。延。余。散。定。被。世。俗。不。謂。賣。あり。○脚。坐。賣。あり。

○商。用。比。神。田。社。堀。半。波。天。王。され。と。紀。う。よ。傍。羽。織。と。あ。ー。稼。田。彦。の。假。面。と。被。り。幣。底。持。

赤。毛。紙。と。牛。波。天。王。と。印。く。り。小。符。と。す。れ。と。あ。く。く。ゆ。ね。す。と。云。く。青。波。と。え。小。鬼。舞。付。

源。も。く。と。と。と。せ。と。り。く。目。毎。よ。大。船。と。く。り。ぬ。通。社。神。と。代。官。内。少。捕。祝。ま。と。そ。

往。中。う。り。出。う。今。へ。も。出。す。と。初。は。と。落。德。集。よ。云。つ。と。多。ハ。先。も。本。も。の。ま。り。ゆ。かり。ぬ。

○田。植。あ。く。と。謂。へ。奇。と。ひ。て。早。苗。と。う。と。か。り。

螢○立夏の後。王予辺。より早。一。谷。中。螢。波。る。因。落。合。婆。見。橋。辺。同。向。下。通。

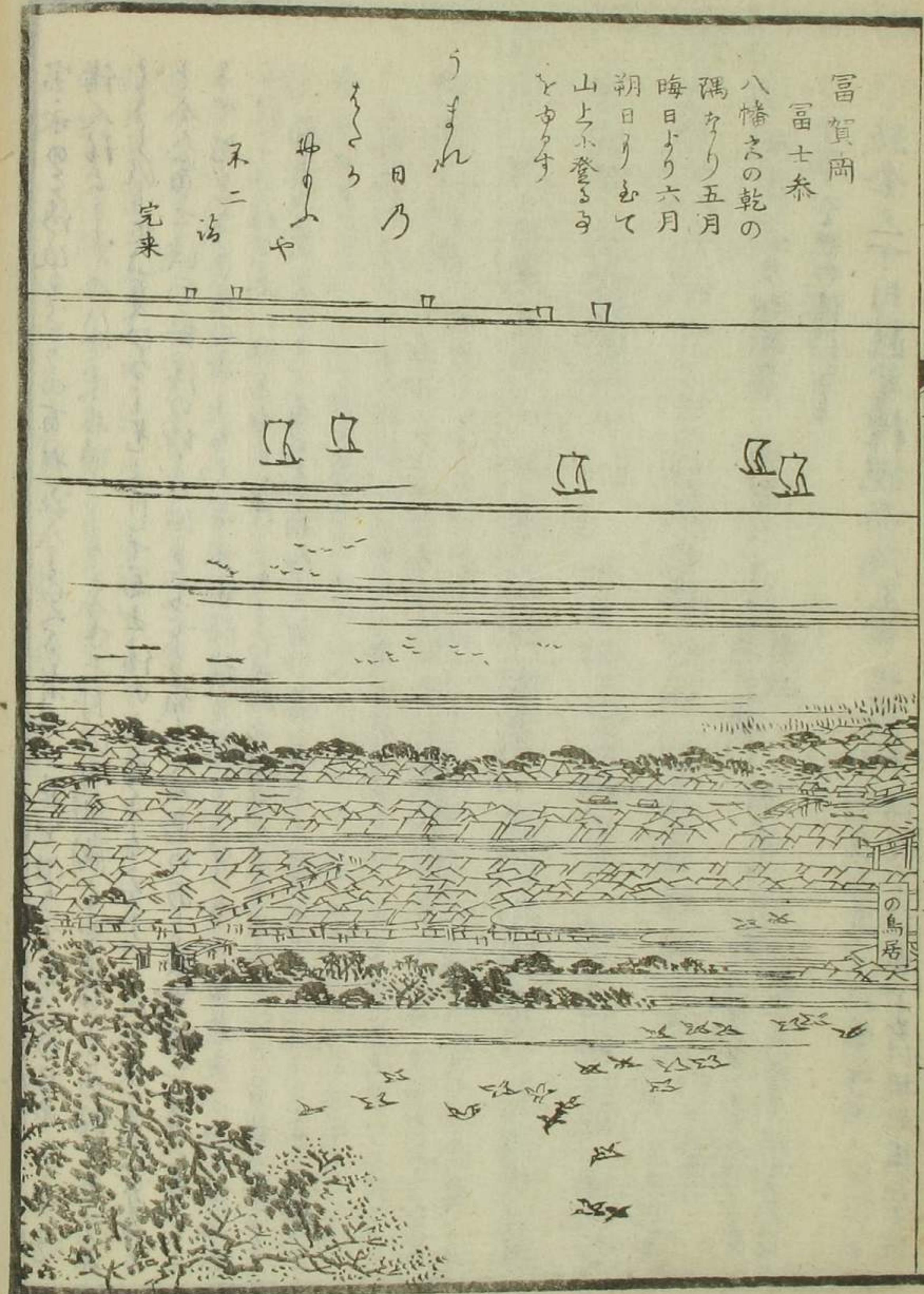
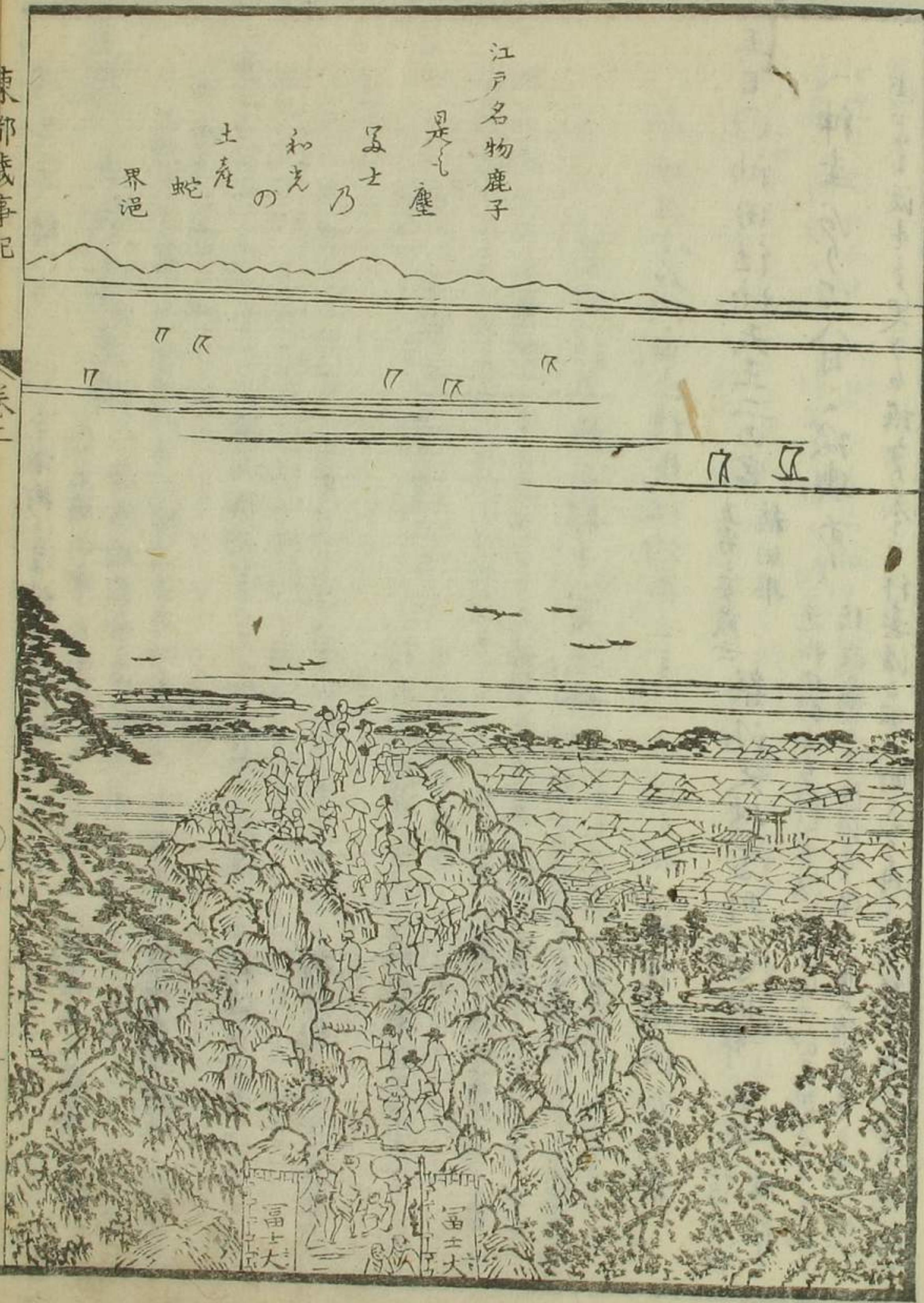
同黒辺田畠 吾妻森辺 濑田川堤 之外名而あり都下の游人莫智も漫遊
○合歡花シナノキ小暑 濑田川綾瀬と名ふと年れどもをまか
秧鷄ヤマハク立夏より 横場 佃島 寺島 根岸 標茅シメジ原辺 カレム雲りる日より
鴨川村○多摩川 五月より文月の末の近

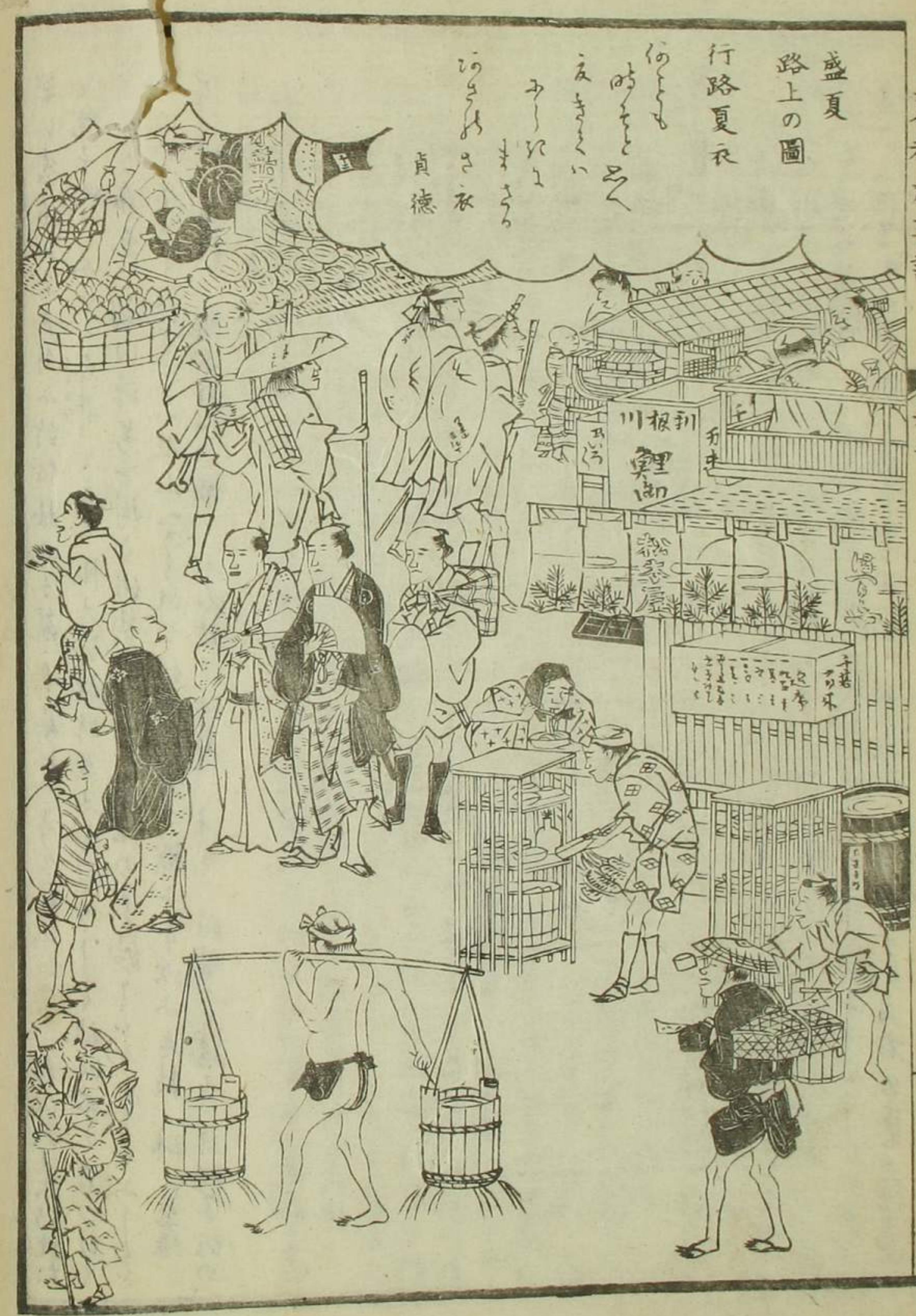
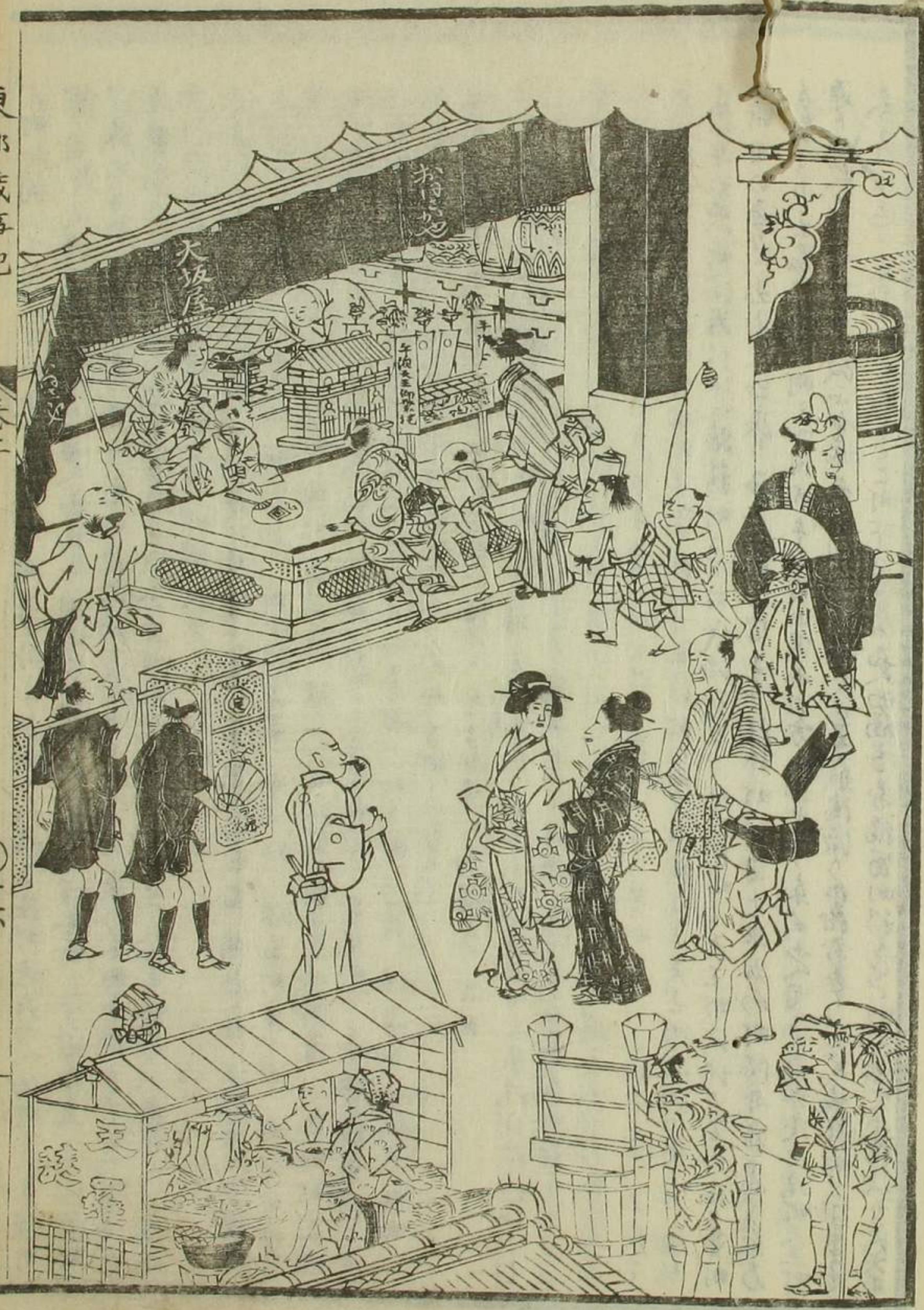
六月

朔日○氷室済祝儀 賜冰ヒカリの節 加賀疾済藩邸ヤシキ氷室ありて今日氷取より
町家主ても四多幸ヨシタカあとひて製ヒツ候と食ヒトツてうきよひらふ
○富士參前ヒル同 暮シテより群集も 雲ありて登るゆきをあく炎署の時成ゆて
登山を乞ふゆふ今日至詰アリタマなり
駒込別ヒコあれ 江戸落不紀アラシりは社ハ百年もくりそのうち本多よりゐる所
つきもあり山のよす大なるありも本のりふゝ月初日より書り
つるは木の本よりれどもくわすすりひがよ人多思きて本の本より少はと
送り時ハタハタぬ大空のうらかをひて富士権現と効法エフカりまより年ごとの八月
朔日ハチや富士系ヒルとてまほよ不承スルを経ハシせしと寛永の初めづるはふと賀川小糸の
中納言シモニ領ありて下屋敷シモヤシキとある公も移シフむ社の源よりそ毎年二月廿日より作る
あり云々今日境内まで麦藁シモハシを蛇と作り兼竹シモハシを付て商ひにテ塵拾スミタチと之を手紙よ

宝永の三月はより百姓森八とくる者やと是と仰りてあれの日市より今
諸人シロヒトからくとひて求め取りヒツクて七月には府疫癒ヒツクちやう時より蛇と争ふ都
をくじては憂ひか一色よりして富士塙の土産シロヒトあらひこれと求まシロヒトなれり
と今ハ富士浅写効法エフカの地ヒル何よりも商ひ又み色のあく袋黒物と售シロヒト賣シロヒトら
そぞ他生ヒル手持の唐カイもと井冰氷候ヒル豆腐ヒルともひきよシロヒト由忠麻子江戸砂子ホ
モ紀ヒルこれと今ハひあかヒル唐カイもと井天ヒルの近ヒツクもありシロヒトやいア名物席シロヒト
同福者の度ヒルりへまシロヒト富士主扇ヒルとすり昔ハ童子水盤ヒルと丸ヒルを洁ヒツクと身を角ヒツク
向ヒル白シロヒトよらき若歯ヒルや夏ヒルとまよてとくすもものきシロヒト今日境内見甚シロヒト諸商人出道す
げシロヒト懇シロヒト挑シロヒト木ヒルく出シロヒト後炮洲ヒル御禁シロヒト院ヒルあ社へ花万枝ヒルと納シロヒトす享保二年ヒル今より絶シロヒト
凌草沙利場ヒル別シロヒト高シロヒトお中修善院ヒル御禁シロヒト院ヒル小野八幡宮ヒル境内ヒル文化年中石ヒルとびて安志
同一の鳥居の左 同森下町神明宮内 後炮洲稲荷ヒル内 莺揚町天満
宮境内 化の端七軒町ヒルあり 柳原柳森稲荷ヒル内 神田明神社地ヒル文政十一年の夏
下町ヒル不動 小網町ヒル下谷小姓照磨ヒル明神社地ヒルひと葉り
高輪泉ヒル寺ヒル如來寺ヒル本而ヒル六月 慶戸番門ヒル同惠行人坡ヒル余ヒル石ヒルとくみを度ヒツクと
てくすを世の流ヒツクり

○飯倉三丁同熊野権現祭礼之日近修行ヒツク補理ヒツク御妻ヒルと出シロヒト挑シロヒト懇シロヒト方ヒル





之町同向二丁目之丁目のうち出戻り岡ニ丁目より又大体る溝町迄たり。同町より本銀町
に丁目と大体る溝町の宮東へ出戻り岡西の橋とゆく後り甜急町ニ丁目河岸と九郎町
の名の宮の小橋と角へ渡り先の左大体る町を丁目より又本町を同至丁目河岸まで
左盤橋上より引返し河岸をうより本石町を丁目ニ丁目をうより町今川橋をり筋遠
渓門より河岸通壁を横の坂より社地へ入る

産子の町を 通篠路町 本町 東丁目 国二丁目 本石町 東丁目 国二丁目 十駄店 東海町
東丁目 国二丁目 国三丁目 国四丁目 国五丁目 国六丁目 国七丁目 国八丁目 国九丁目 国十丁目
同三丁目代地 国二丁目元地 国三丁目元地 国四丁目元地 国五丁目元地 国六丁目元地
福倉町 新田町 桧木町 松下町 東丁目 彩葉町 銀町 元多賀町 岩村町 本
銀町 東丁目元地 細尾町 二丁目新地 東側町 松下町 二丁目 国三丁目 福倉町
彩葉町 二丁目代地 宮元 大隅町 本
七駄集落 土の役屋あらうと 松乃瀬もまた 七月の都 篠外 其角

詩經外其角

○浅草寺門外第六天神祭礼 神主綱木氏
神主綱木氏 二月九日又祭礼成神社ひよと
なり隔年今日神輿之後を左筋左の如く
本社と並て久之本社に立同代地と茅町二丁同の宮也
慶り少々祭事門構多あり其處又

本社の馬より柳橋をあわて下車を裏町と曰う裏門のあたり茅町二丁目の通り東へ歩くと
先の裏門あたりから今、森田町といや町二丁目代地の名へ入ると天王町代地の名より成り
まへ平左衛門町の名代地の名と多く同町と天王町代地の名より廣井町
町の名より生南へ出度り西へ同町の名より後井町二丁目上平左衛門町の井家姓紀乃
より生度り後井町二丁目内生子丁目の名の方へ出度り東へ向二丁目出度り尾町天王町
通り西へ天王町の名改正會布示引返一通りへ生度り鐵鷲渡りの名もあらずと先旅館町二丁目まで
まづり行進、森田町と先をとこ附二丁目の名更西橋もあぬ町が通じて小篠渡り天王町

前後や町山廻り事等正経町をより出廻り元の小橋渡り新堀又津で津念もあゝ東へ小石川留
代代木銀やこの写よりも湯のあらへ武家地南や出廻り元の三傷の新久野と新木戸と
塙家屋とその間山廻り小へ移と町山舟町代地綾川町と写町被家町は掃除庵家野と
町元も越町木の代地的場の写様尾町代地少く人せれまた町と二間町の写より同大なり
支うちひ花あ通りとぬ裏より

當社甚子の用ひより乍ら此甚る番組の通り出一社りぬと出せりうをきほより中絶モ
祚善も天保元己年よりむくものとくに至らるなり

方辨候處蓋一九番 同森田町 以上十三所より
六日 ○ 渡来どぶ床 長遠寺祖師用帳同運の守れ事
七日 ○ 申因土也三一の事 素盞

十四日、徳島の宿鳴る。南はる町二丁目の本旅館へ神幸ありて
十五日、徳島あり。あすへ遠旅出のり、翌年十八年六月七日より嫁と云ひ姓大倭の町
十六日、徳島の子、西村もくらハ宮元の町ゆき、宿泊江利又加久

精進の内より油種精進をり數寄屋橋内近支より元のた呉後橋寺門を生左りへ和の岸
町河岸をえ四日市町塩地店をり本校木町幸子同より同二丁目近支より引くへ
幸子町幸子町より通幸子同よりをり町通り京橋のよすけ林糸を垂る林糸を扱く支

仄りて南條る町二丁目の役屋へ一月申の割

十日自坂社乃筋夕八時役屋と出で京橋まで引ひそぞきり町日本橋今川橋須田町
あり筋遠橋御門を出河岸をり湯ノ木役町裏より壁を銀石坂を登り日暮渡社越へ役妻

彦子の町へ通す同月同二日同二日同二日同二日同二日同二日

吉野町 美町 楊原町 白根町 呂根町 平松町 吉田町 本村町 本村町 本村町 本村町

小松町 佐内町 川瀬町 元大工町 南油町 駒車町 敷井町 滝谷町 岩金町

持正町 福源町 本村町 二丁目 檜原町 乃多町 田中町 上桂町 油絞町 下桂町

西倉町 桶町 本村町 七町目 本村町 本村町 本村町 本村町 本村町 本村町

安町 本村町 八町目 与沼町 丹波町 大瀬町 正木町 桶町 東倉町 南桂町

於木町 圓幡町 本村町 八町目 乃塙町 柳町 具足町 西町 久布志町 小糸町 白根町

安町 本村町 八町目 与沼町 丹波町 大瀬町 正木町 桶町 東倉町 南桂町

○品川牛頭天王祭禮 南品川天王八重神明社の相殿すり 繕え小品川天王寺海浜
辯入りあり南小豆社の神輿中の掲すておあひき族不南少く見る事よろめ櫛と渡の

櫛とりおも族をも南かとりおも中津還の内東側又役屋とあらうてお仲みひー乃

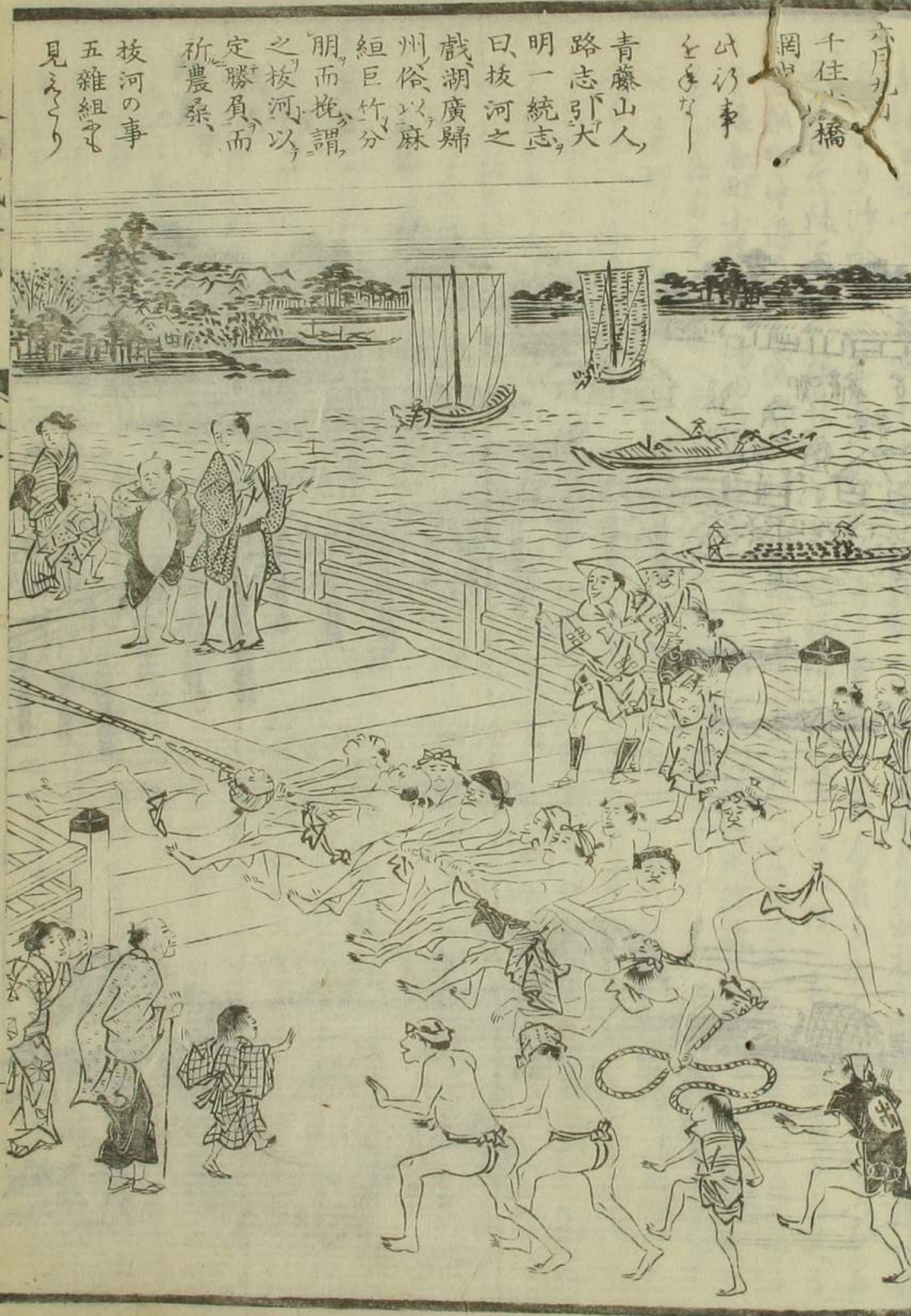
舞と飾る今より十九日近事族出城りとの舞ひよもん方ナリ あ社生手やも輪

と品川の境近事い較明の所よりおもる又おなづり御の村よも産子なり

八月の後某町花前牛頭天王祭禮 別尚大同寺 社家のお還り役屋と補理て同月

ハルと付て神がへ取む行人まきとひそ度病除のちとひ遊ますぐりて争ひもとそ

混羅いの年年おふ世供ま子玉と様子今月神事拂り神事拂りと汝すなる助町くわのが



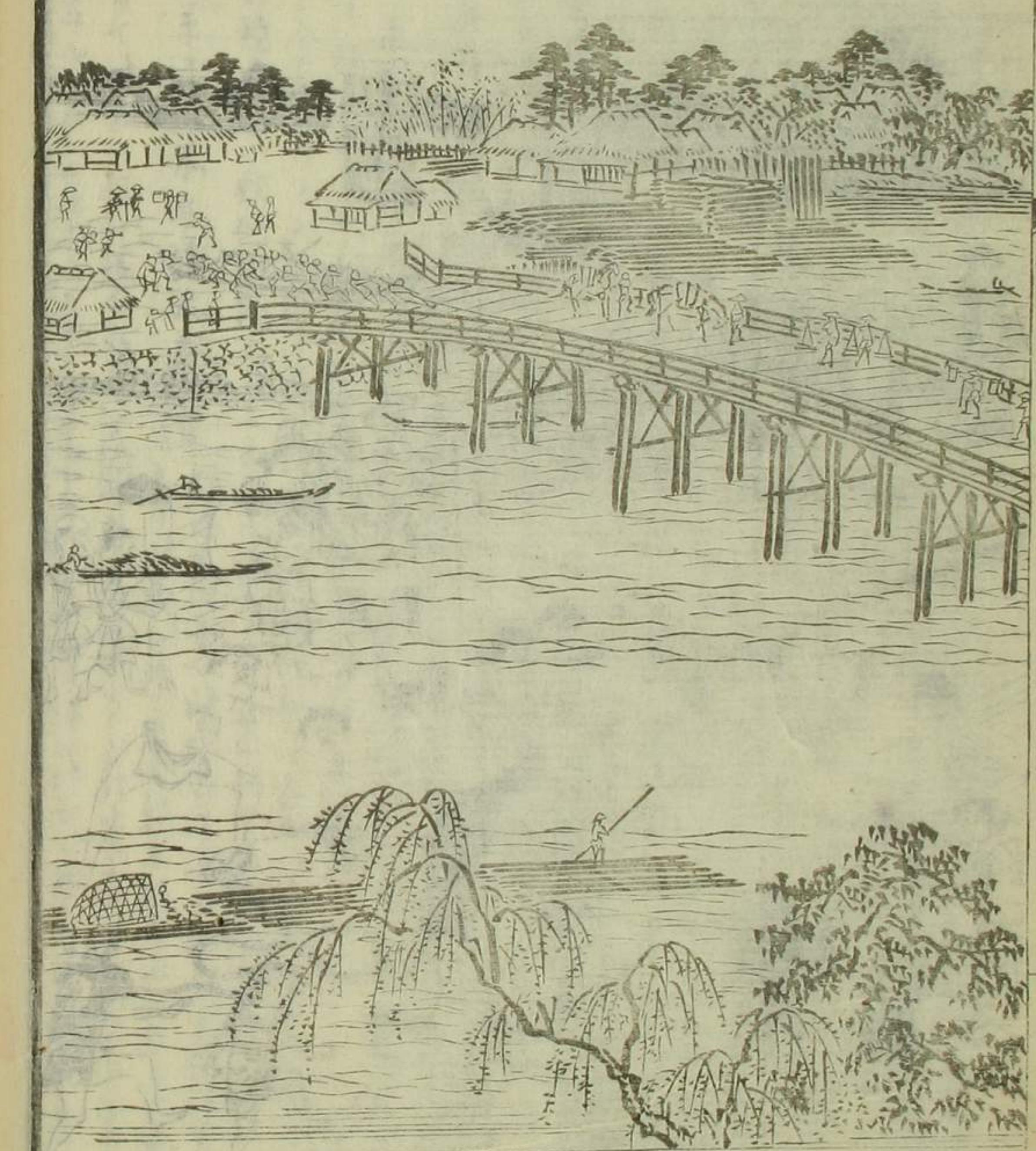
網曳

や

大男

利一

宇月



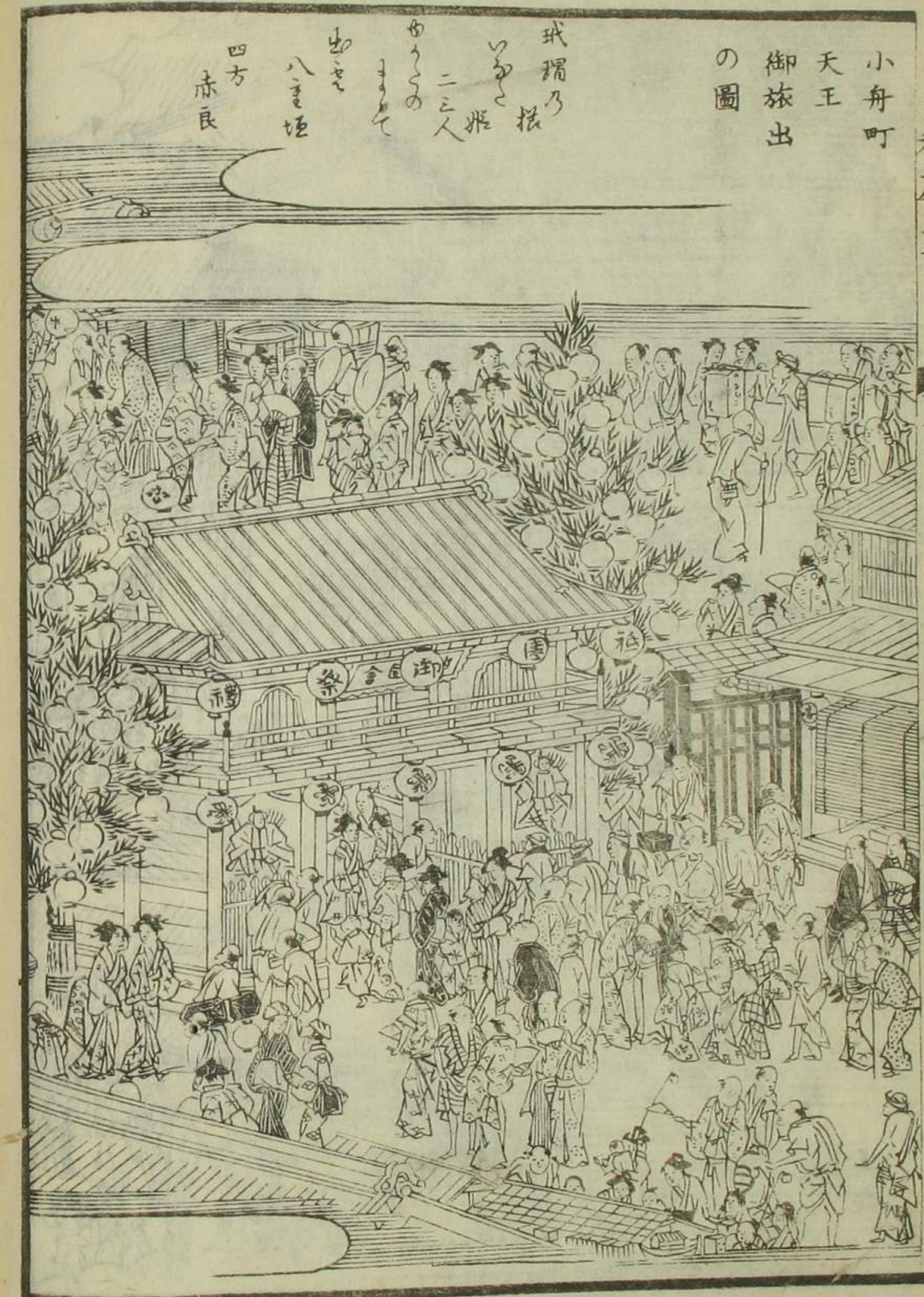
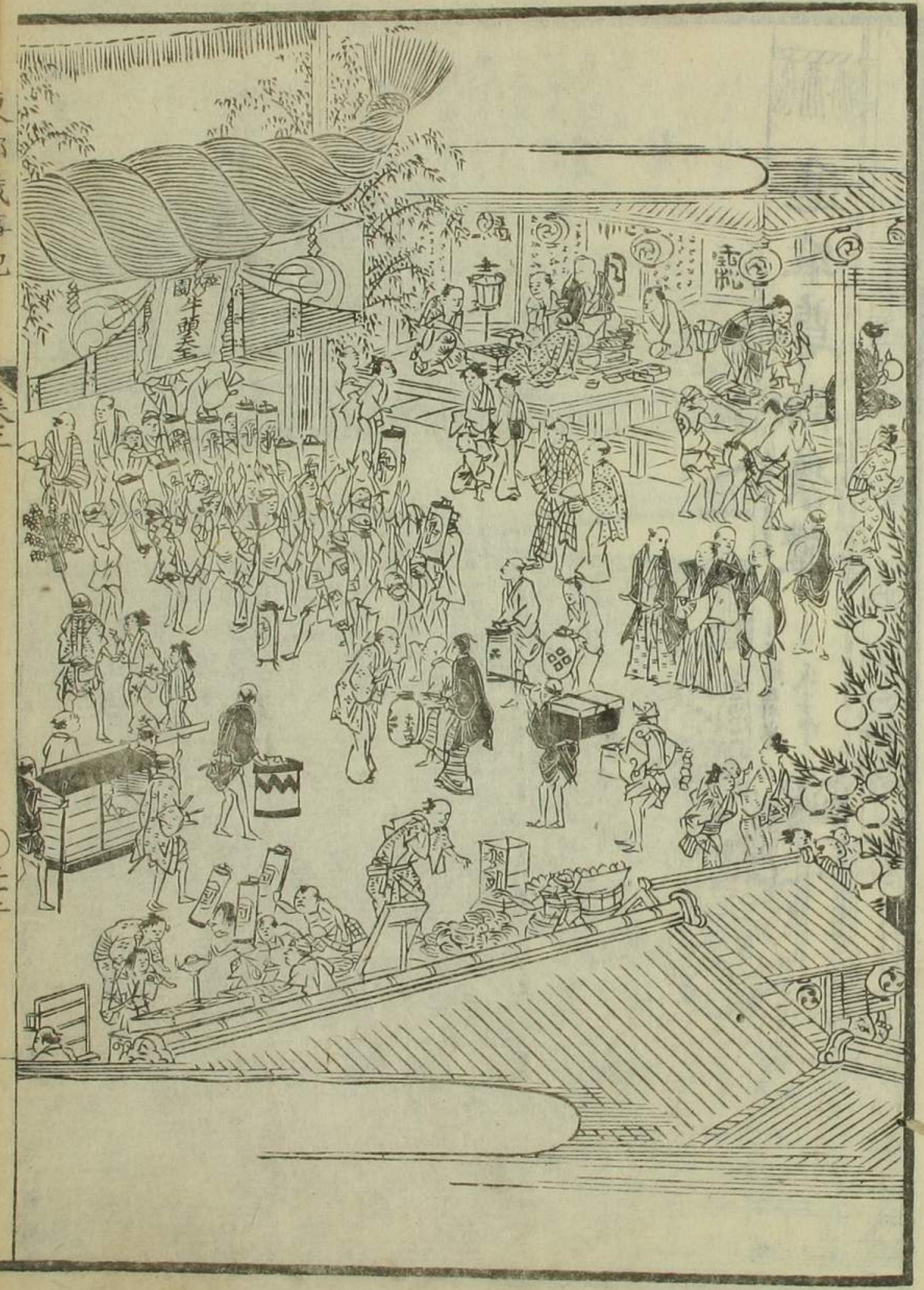
本社と生て當差通本少へ先旅蘇町二丁目近因丁より出處り同至丁目二丁目の間
而へ生り淨念も同左へ移坂端より書留所開御案あ出處り同御後もつあるのを
よ経ひて移坂町移旅蘇町と曰り移坂端小橋渡りあ松門あ三筋町並をなへ先
旅蘇町中通りを多城跡跡社の後通りと号す事へ天文正用而後あ移坂町一丁目の多曲
り移坂町小橋渡りは田原の多曲は付てゆへ多内橋近因格障より生處り元の移坂町は
多へ多曲あまへ少南へ尾町近因不東の少路へ入旅蘇町二丁目代地通同序時代地南曲り
右へ茅町二丁目大通りへ出南二丁目ゆく出處り大通りと角へ本少六丁目代地と茅町二丁目
の弓筋へ出處り茅町門斗形の角出處り茅町三丁目第六天門あより柳橋跨近因不
あり處りかへ下平左馬町河岸を下り同町ゆの方出處り下平左馬町中の邑同森田時代地
と茅町三丁目代地の弓筋へ出處り第二天裏つよりより茅町大通りと同二丁目の弓筋より
連より少因一丁目二丁目弓筋へ出處り後井町三丁目通同二丁目弓筋へ出處り同中
まゆいの里九日夕前を桂へ油せあり

九日○濱草鳥越明神祭禮 八日より旅へ別處長樂寺休之縄本氏古來爲月
の町へより少一程りぬと渡りる同一年不中絶も神輿ハ隔年今自產子の町と云
本約本經の布となり南へ先を鐵町後富町三丁目書留所の町底銀山房虎松院門
あめへ三筋町南へ越移作復西へ本家ゆきり三筋町又本社の布を因格渡り移坂町
と北田原の藩の弓筋より天王町の移坂へ出天王社前より江邊へと鐵橋渡り森田町
まで通へ移坂端小橋渡り本社の弓筋へ武家地小笠原布本移坂門あ小移の際
うちかへ大久保家主本家主へ戸田家二筋町渡りよう移坂端少出處り少橋渡り
津急も様りりと廣り同中の布を西坂町代地同から場より渡りて本社の後處へ近

猿尾町へ入た右より廓り野毛とご町より坂家山へ桃林寺跡室をあ下橋渡り左へ
院前川町山廻り左にふくらむ先の小橋傍より本引寺引安寺の写ゑへ諸寺門あ
ふ福院と東岳寺の写よりあへる覺も紫翁もる山廻り蓮光寺法泉もつる山廻り
称念も延命院も山廻りあへる源もあひ新院様山廻り鐵田家也にあれ前家の
ある所へ小鷹町花森院様山廻り佐竹家様通小川よ源ひて村川家山廻様通あへ松平
至川底山廻の南へ入松浦家井作が山廻の写七曲り通り多内橋渡りあはれ山廻
寛政八年の番組產子町くたの如ト町数廿二丁山一數十七キリ江りわと半々
一番 渡来高松院門番 **二番** 同不 **三番** 同猿尾町 **四番** 同代地 **五番** 同院前川丁 **六番** 同新さ
町二ヶ寺門番十二ヶものあ **七番** 右門あの内 **八番** 同 **九番** 同 **十番** 渡来高松院つま **十一番**
下谷小鷹町 **十二番** 渡来高松院つま **十三番** 同 **十四番** 同 **十五番** 同 **十六番** 同 **十七番** 仰山も同町の内より出る
○ 千住大橋綱曳 **十八番** 今ハ小柄京天王の御事れゆきの橋の南かとて大綱とひき曳ひ
多手のをひとよひひきうづやもすれを國譯ふ及ひゆへと村云ひ
其てひと止くと止くと身又今自詠妻大河と波せしもあらうともも絶えり

奇橋田姫威カミツチ
十日○神田社地天王之の宮
山田の大蛇ヤマダノオオヘビ
小舟町亭同の御旅而く補修ハシモト神幸
ありて十三日帰轉カムツクゆりの写娘ひととよ従きてより小舟町社還よ御焼ミヤヒヤの如くよよ
うち樓門とたゞ夜々燒火と點ハラフをはせ事正徳のひより路ハシモトとよ外大御燒ミヤヒヤ桃灯モモヒルと
かやう・春中の光景を絶の如よすハシモトい今宵計裏カウジウ波音ハモニの如く助アシタ方カタモ祀スルも一〇の

明治二年時神田社前より左へ湯島まで通旗銭町より度小路筋遠橋門を入り酒田町
通り今川橋渡り本石町之同横町本戸より席り同三丁同四丁同五丁同六丁同七丁同



南信
天王
御
渡脚
之圖

東者歲事記
夏者歲事記

卷二

三十三

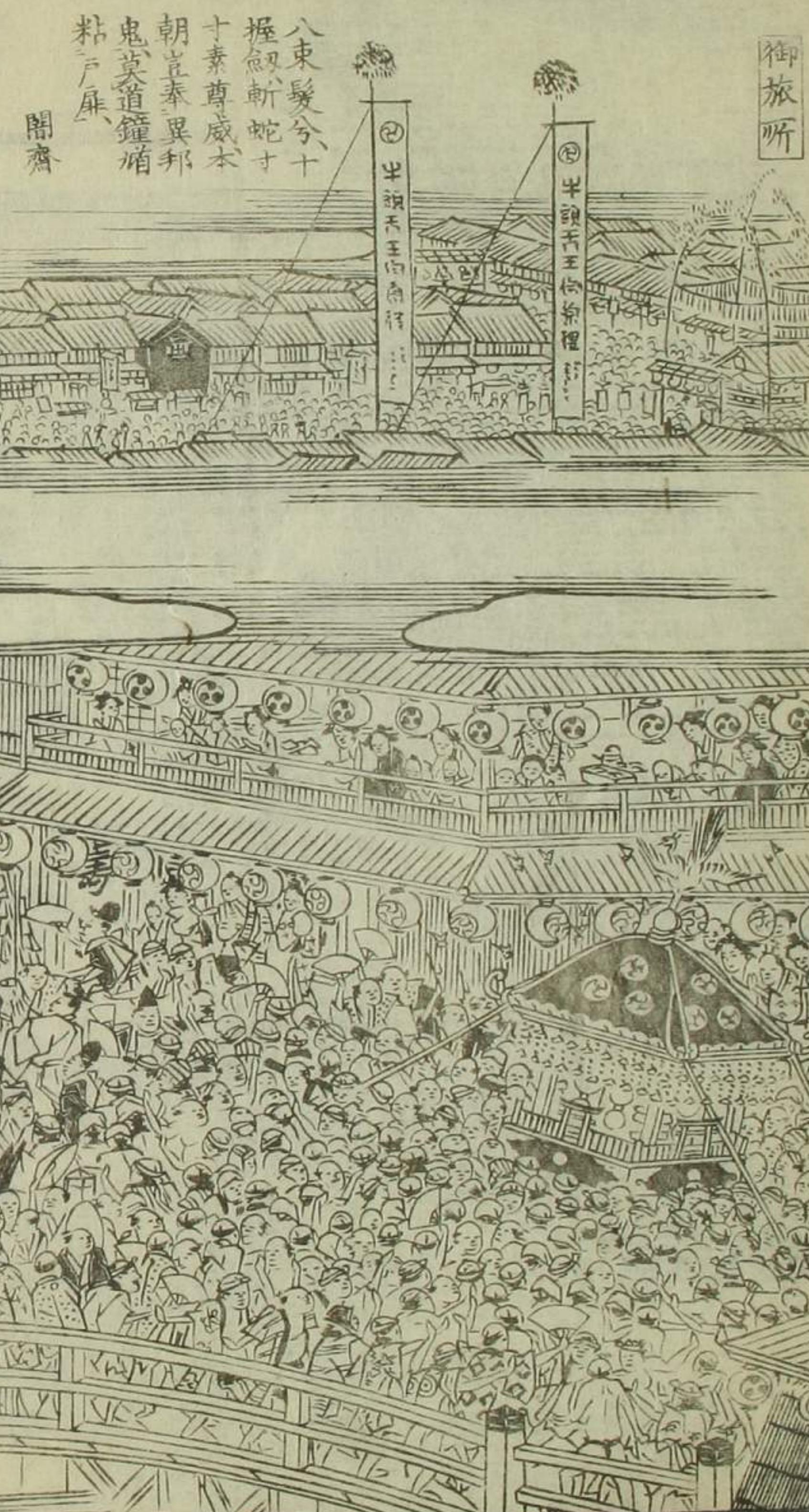
御旅所

進雄尊御祭禮

氏子中

享和元年六月六日未及

日本橋西岸



八束
髮今十
握劍、斬蛇
十素尊威本
朝峯奉異邦
鬼莫道鐘馗
粘戸屏

開齊

十三日改社乃筋申刻山坂屋を出で小舟町二丁同三丁同左へ而し又橋中より廓り堀内
左丁同より左へ大樋町通り右へ本石町左同三丁同左へ今川橋通り湊田町より筋通
門より奥へ河岸通り壁堂経の坂より左へ登り社地一還輿あり
彦子の町へ 小舟町左同 同二丁目 同三丁目 先瀬町 橋町左同 同二丁目 同三丁目 同左同
影坂町 宝町左同 同二丁目 湘戸易町 車町三丁目裏河岸る喰町左同 同二丁目 同三丁目
同左同 桜本町左同 同二丁目 湘戸易町 車町三丁目裏河岸る喰町左同 同二丁目 先瀬町 委計町
不川町 同裏河岸 村松町 善松町 久松町 畠塚町 横山圓明町 古谷町 通路町 本石町
二丁目 同左同 深井町 小舟町上町 同代地 右有原義 小細町左同 同二丁目 同三丁目
同左町目換町 高石町 四番町 金油町 野村本町 下柳原圓明子 同前地 塚町 善代町
堀江町左同 同二丁目 同二丁目 同三丁目 横山町新町 菅原町 沢橋町 木暮町 旗袍町
達波町左同 同二丁目 同三丁目 高町 横山町左同 同二丁目 同三丁目 菅原圓明子
新宗村町 広介屋敷 大久保金蔵 本船町 長瀬町左同 同二丁目 宮元山町山手
十一日○大塚護心寺山内富士より十二日近奉詔あり

十四日○今明日龜戸番取太神宮祭禮 神主 番取氏 今晚亥の刻より作糸獅子限
番社の山坂屋と吾妻森より東田の冲よりさうの地あり往古祭礼跡りて時既婚
より印と流しもの止りする而し復掛と宮むへーとそ別印と流しもの止みの止す
仍て山坂掛と定め奉れの時此地へ作糸を延びてある往古の地拂ひて幸いに之の
例とりや祭礼の式始てソヤーの後少て山坂と云ふことをへき善
粉をうけて薄の着を替へて山坂屋うて宝あふ供へ一彦子の人民少と食は往古
の辺人民少くね乏しきのうえ少骨にて今々珍へとせ
○小村井村番取太神宮祭今め日続け別面官妻森宝蓮と兼革以絲帶と接幕と連て

法事言

見聞

卷二

三

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

四十八

四十九

五十

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十

六十一

六十二

六十三

六十四

六十五

六十六

六十七

六十八

六十九

七十

七十一

七十二

七十三

七十四

七十五

七十六

七十七

七十八

七十九

八十

八十一

八十二

八十三

八十四

八十五

八十六

八十七

八十八

八十九

九十

一百

一百一

一百二

一百三

一百四

一百五

一百六

一百七

一百八

一百九

一百十

一百十一

一百十二

一百十三

一百十四

一百十五

一百十六

一百十七

一百十八

一百十九

一百二十

一百二十一

一百二十二

一百二十三

一百二十四

一百二十五

一百二十六

一百二十七

一百二十八

一百二十九

一百三十

一百三十一

一百三十二

一百三十三

一百三十四

一百三十五

一百三十六

一百三十七

一百三十八

一百三十九

一百四十

一百四十一

一百四十二

一百四十三

一百四十四

一百四十五

一百四十六

一百四十七

一百四十八

一百四十九

一百五十

一百五十一

一百五十二

一百五十三

一百五十四

一百五十五

一百五十六

一百五十七

一百五十八

一百五十九

一百六十

一百六十一

一百六十二

一百六十三

一百六十四

一百六十五

一百六十六

一百六十七

一百六十八

一百六十九

一百七十

一百七十一

一百七十二

一百七十三

一百七十四

一百七十五

一百七十六

一百七十七

一百七十八

一百七十九

一百八十

一百八十一

一百八十二

一百八十三

一百八十四

一百八十五

一百八十六

一百八十七

一百八十八

一百八十九

一百九十

一百二十

一百二十一

一百二十二

一百二十三

一百二十四

一百二十五

一百二十六

一百二十七

一百二十八

一百二十九

一百三十

一百三十一

一百三十二

一百三十三

一百三十四

一百三十五

一百三十六

一百三十七

一百三十八

一百三十九

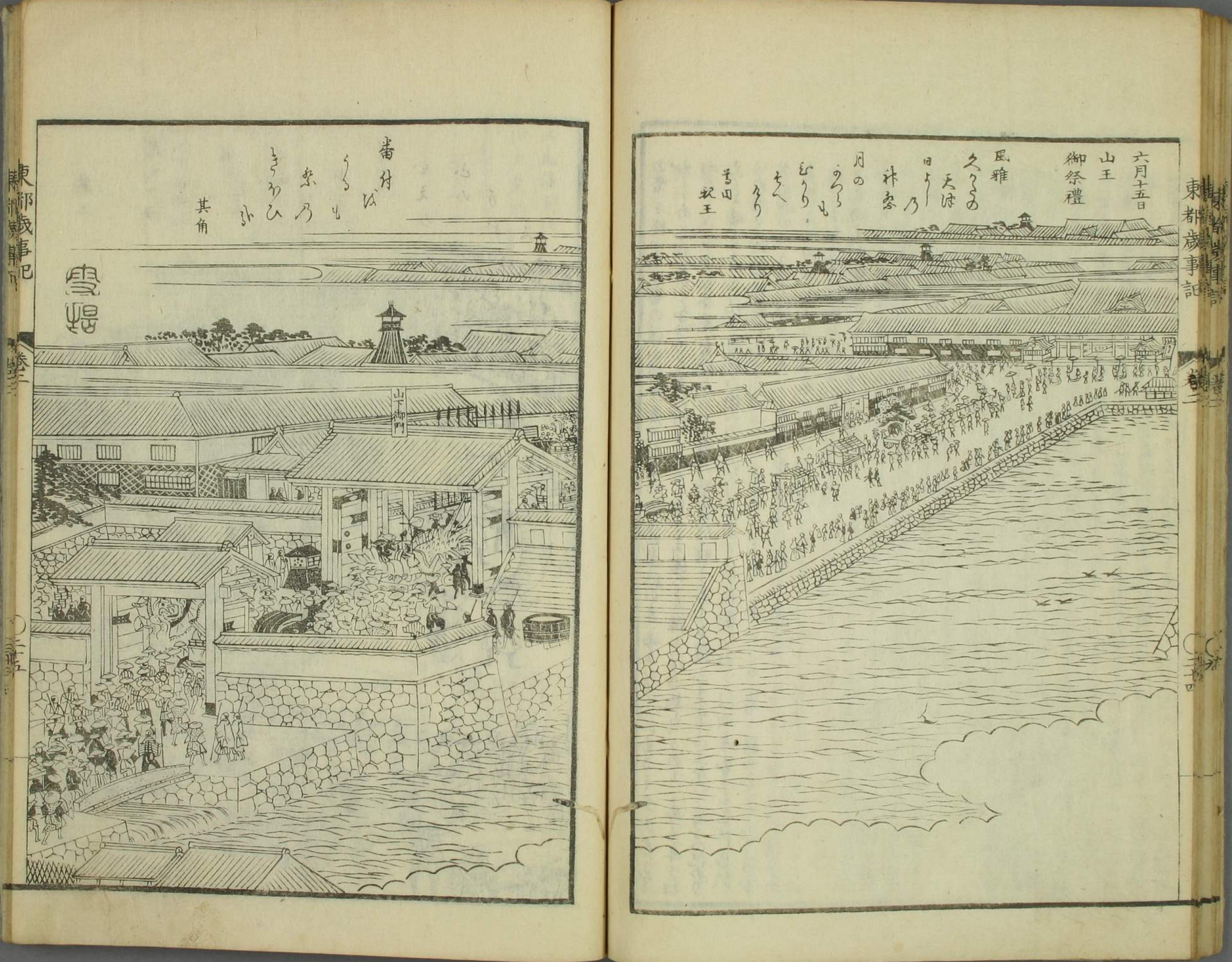
一百四十

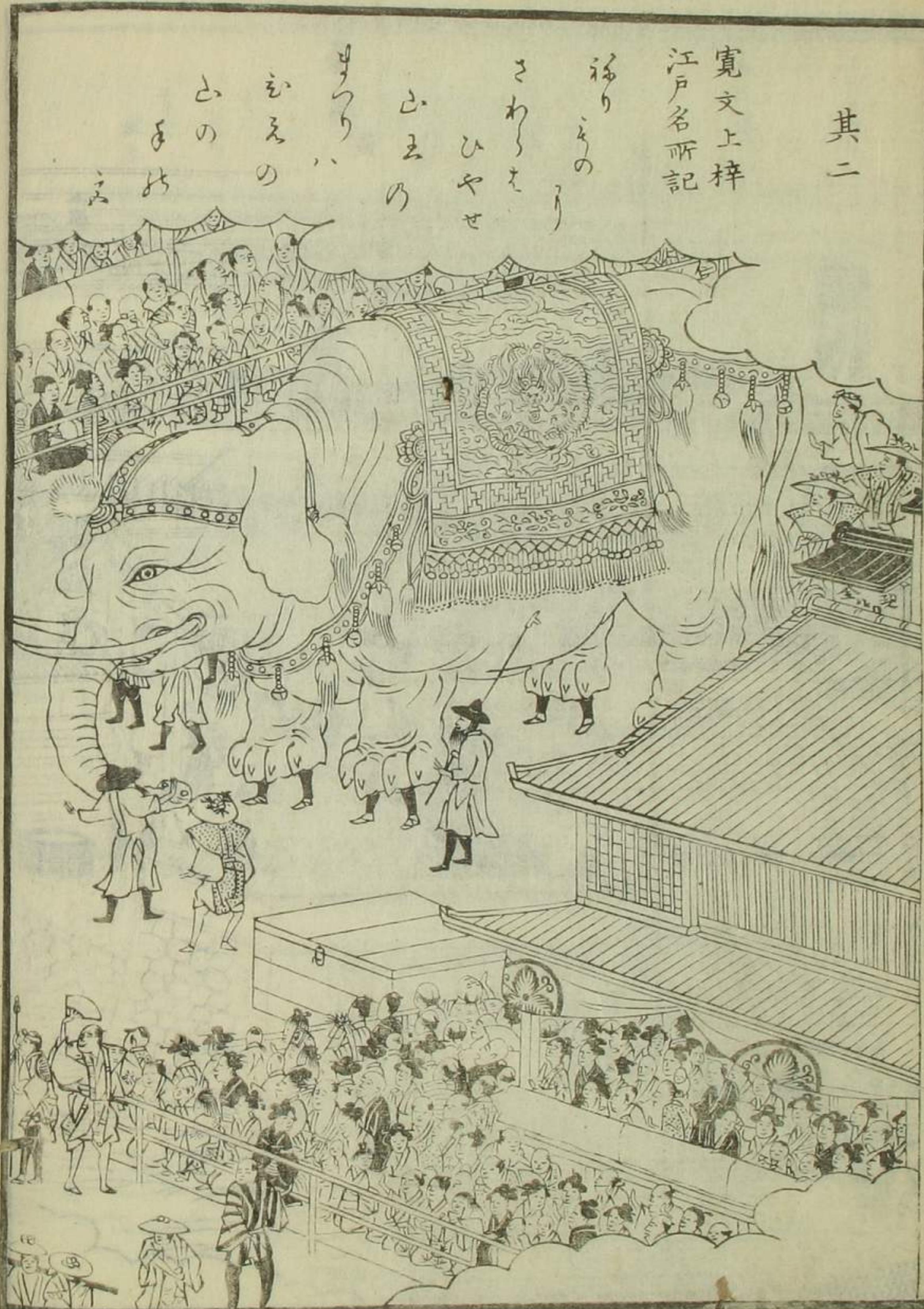
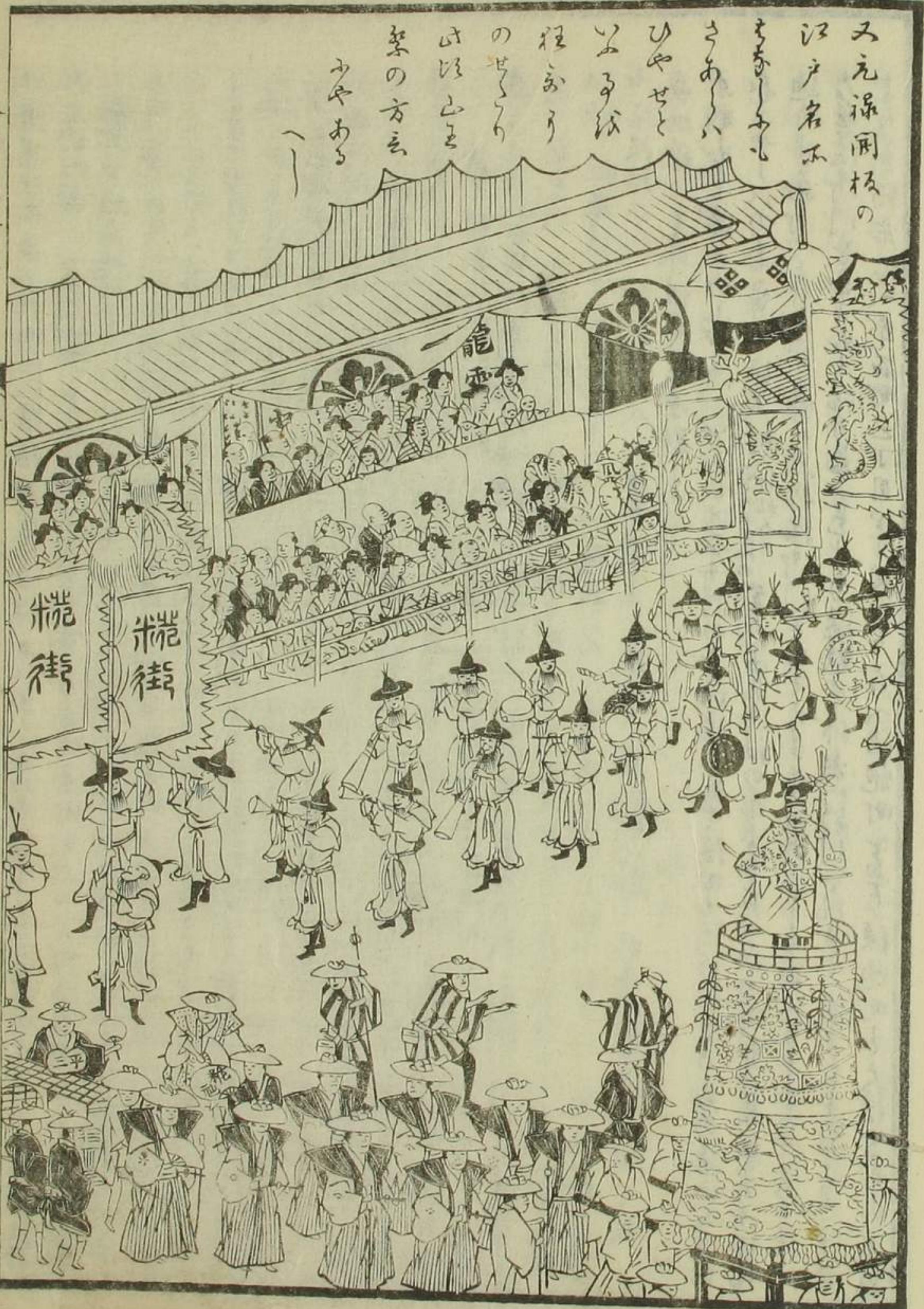
一百四十一

一百四十二

一百四十三

一百四十四





右へ大はる町幸丁同と並り同二丁目田町左へ堀角二丁同幸丁同より左へ小丘町幸丁小網
町と並び堀角海り右へ是處橋海り茅場町幸丁より幸丁旅所よむけはふと奉幣海り神戸
以南を走りより海城橋海り幸丁町より幸丁同へ山大通りと尾張町まで右へ山下町下
山下門と入り先のたか筋と通じ本社へ遷座あり。○年中乃変大成又之都參祀以内
京師ハ姫園今大坂ハ天満宮也戸ハ山主參合せ日本之三大堂と云とどり同幸丁
天子幸也上車其角「臺付」と書くもよりのとて幸ひ久能全

○赤坂氷川明神祭
十一月始て神社と移すとあり

學りみ丁目とが取地の者をもて或取地と一木町塙改通りより引廻へ乞のをす。本社
後の武取地の者もて修る。

○清葉ニ社種現祭祀 今日未刻田乐彌あり人の衆人鳥帽子垂幕と毛リ毛のあ絵
幣と村内源流小田乐の衆人柏坂村人薦次人奉人を鼓お二人の金も絞簾と冠を次ふたを鼓ア列と
本堂より坐堂のあら縁へも神事小祭り小祭り柏坂浦ありゆ降りて居る者るより下り二車二箇女
の内とうちうらの神とかくその外うらもく神とあるえ考と接物で神よりありのるハ
例えて高橋より出田乐の衆人難いもふやうの各田家老ももく報世老出役の時蘇と結
りて安樂せし十人の衆神事のあからとつあ神事は廉食の右大將本昇まりと云ひ
の參れともひくとく徳一丸よりの如也。

○橋場牛頭天王祭祀

裸あるか世よもざり祭りとひ神事ハ天正十八年の製造年と
いり藤總集進考云神の寔神是某の活よ橋場神の宮の地と沙入とス神の宮乃
多れと月十六日より泊入のゆるひ祭りとて今戸町と神事渡らせらるゝ民ふとも
悉く出てうきゆ一人とて主神事の様よと付るゆゑく悉く肩井そくさき
くわびく波うり波くわくひ祭と云々今日八半段天王の参れあると神の宮
の参れともひくとく徳一丸よりの如也。

○山谷熱田明神祭祀 神を備木氏彦子の町く神事と波を前日より纏ひ宝属

美くとくとく同一年より中絶を

一番 清葉躬毛越季平同二番 四町の内三番 同二番

四番 同二丁目五番 同三丁目六番

同四町の内五番 同五番 今戸町おはとみ丁うち

○鷗田川水神社祭禮 別當多門寺神事

二基多紅色

○柳橋妙見宮開帳 別當

○柳橋妙見宮開帳 別當

○高田宝泉寺 水稻

内富士系十八日近 諸人羣集を駆迎ふ全一く麦葉の蛇と

○難司谷鬼子母神葉雜の神事を迎の農父集りて社邊の草と茆拂ふの御なりと

出車立

○白山權現裏門通り妙供ち妙見宮開帳

○足浦小輪網十日自造製松かて今日をもく一十六日を賣初の曲あ板よ

うり今けは法事

○六郷八幡宮祭祀 別當建長寺六郷の勢屋ちかり神事奉基羽田より太師河原

社同治本氏十三日より十八日迄あり今日未時より神事二基

○河原山玉權現祭祀

源田村の神事へ神事あり紙中少て花車一涌り等出でて紙も

ヨホ一神事波瀬の弟へ持手と神幣七本ハ弘安の時の物中て尚社の神室より

十六日○赤祥御祝儀諸侯御登城良賤佳節と祝を

者ハ少十六文とみて食持

と御入含むすとくうていふ一への例ふらむへよふや

○山王神社禮奉三 清葉禮みづくの者産子町の者今日未刻より礼ありと

○吾妻森官妻桂現參れ 別當宝蓮寺

同前日三月小例へ仮面紙もくして神事二基序旗出

十首○木下川藥師堂 神君清神影は拂ひて神禮とあらば

○は時節より二度の芝床大用体とて往々と体むるの写大用志むねと名付く

差しの假や少ひ弊脚通り小つちの俳優あつて無行毛をきびより始くとどり

十分○田谷天王稻荷祭祀 社勢神田の神の社家本村民別當宝蓮院今日未時一日近

同前日三月小例へ仮面紙もくして神事二基序旗出

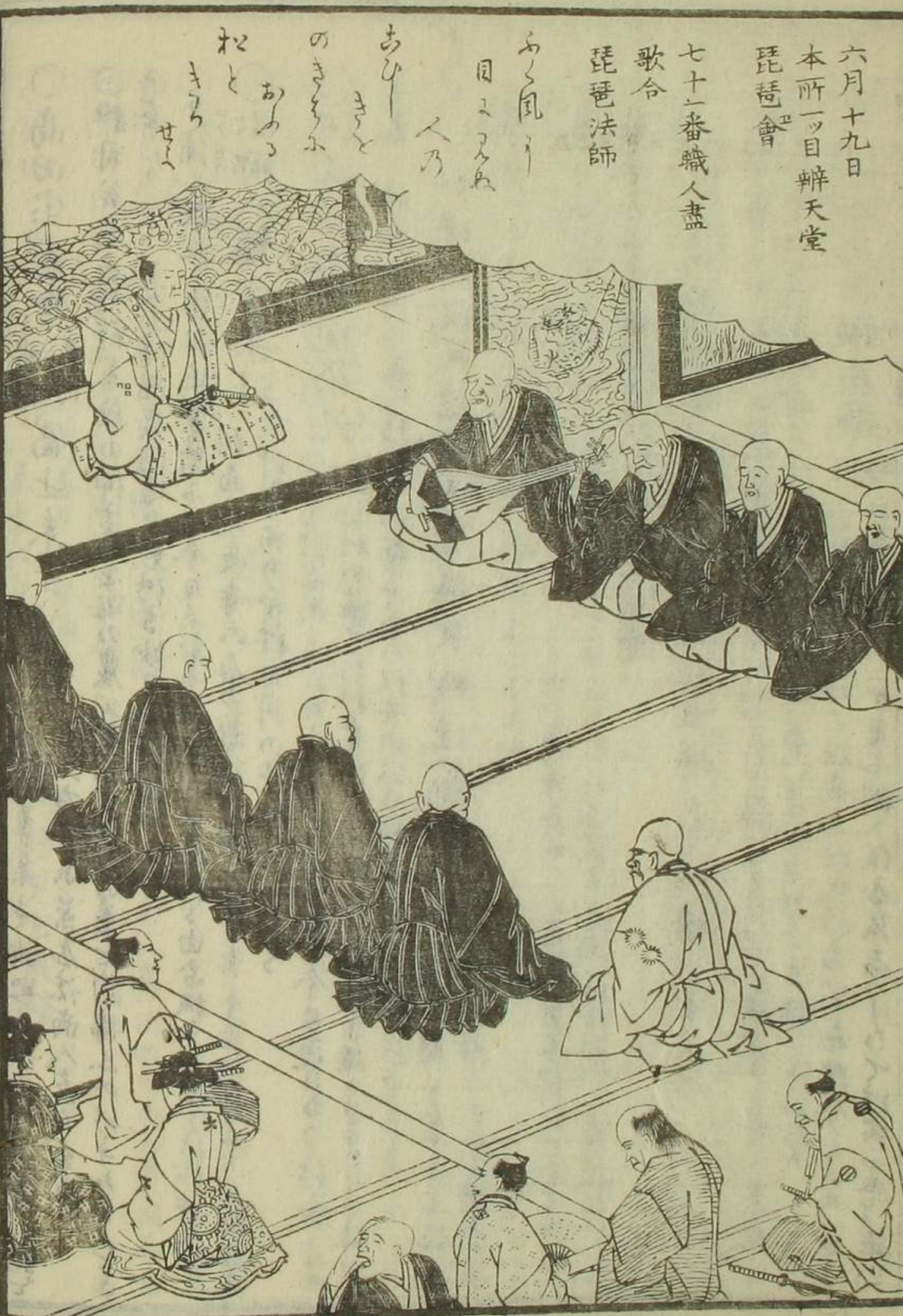
六月十九日
本所一ツ目辨天堂
琵琶會

七十二番職人盡
歌合
琵琶法師

かく風
日よろれ

人乃

あひ
きと
のきふ
あひ
ねと
きと



あり御旅の在居へ日同四作牙飾舜歩と參く支社野子の町の如
総ひ大方ゆくに神樂通引筋後轉よ出

○天王產子 四谷納る町幸子同 同彰幸子同 同二丁目 同三丁目 同法町幸子同 同二丁目
同三丁目 同恩町同仲町 同仲町 同仲町 同仲町 同仲町

同武都小

仲町の内会と高揚

船坂

横町

裏大盛町

祥雲

横町向

至外武都地

○稻荷產子 元駁う橋町 同小町 駁う橋谷町 同南町 同仲町 同表町 同八軒町 同
裏町 に谷仲町 安樂もつあ 横田原三好家 駁う橋邊義旅方

今日四時より神樂二基矣、獅子頭二基子と後一サ一同改善時、二基ともう一橋前の產子城後を
の時と二基より小天王の產子と後一サ一同改善時、二基ともう一橋前の產子城後を
獅子頭の内年番と見て候るなり。は獅子頭の内年番と見て候るなり。は
結ふ事無く、一ノ門やすりてあり。しらべの產子の町は國津ありとどひくくらゐは
季札中古まで隔年なりを世へ奉く小執りあり

○駒込序町大圓寺秋葉社祭礼 ○戸田相思山権現祭礼 別南光院

十九日 ○ 本所一ツ目辨天社琵琶會 東由二同の件と合せりとへ。今日至師も納涼

涼とひとを享保固極の徳を手中返す。又其の事と合せりとへ。今日至師も納涼

同よえね風を中陰の涼を拙口同生と改めとす涼が其角

廿二日 ○ 大塚若翁谷林泉寺あはり地御和目系今明日

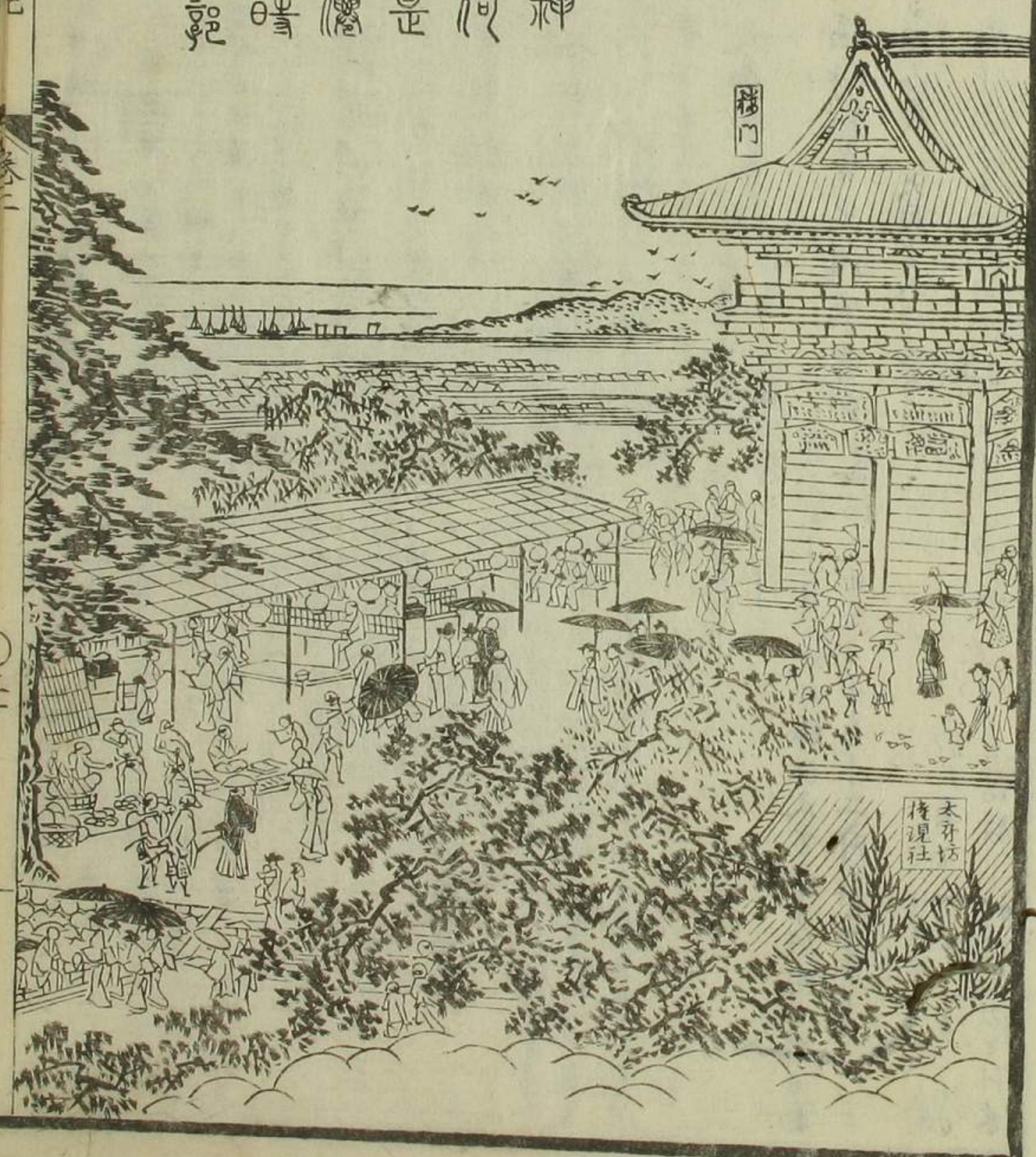
○ 淀川様に摩利支天渡神除祭名越後修

陳脚譜

卷三

三十九

風巖古神
祠不如何
歲移應是
巨靈小隱
南微與時
南記



六月廿四日
芝愛宕社
千日奉



廿四日○芝愛宕社現社子日系
アタコ
別島田福も世後里方六子日ともひけ日よ詫すれハ
この日數は向てより約々テ迄を殊羣集ナシ稻麻
の如一境内みて青破駕ト集メ侍人是と後して齋戒或ハ小児の虫の根と切リヒビヒ
を隣のち岳みて山下より眺望ナリハをくら房総の群中波よしうびをく芝浦の風氣を
みえざさとく沖羽かもねだく巻くぬき近ノアキ河辺ハ松林也とて夏日よしよ
昇生ハ湧史ウツテ之御の署アツヒと忘れぬ伊境ふ松よしとゆやトシマリ

○小石川市清町喜運寺地番子因糸　土人至度セ系シム人
○本而移久愛宕社繫清め構の向通り　多く拂りぬ少通り
アラク

○白金樹木谷覺林寺清正公社祭乳
帐ナゴシ
○御内○寛戸天滿宮名越申事
早朝神社の邊下弓矢木の坂をめよつりたもと

夕方トモリノ御修りて御池又投モアヘ御喜
御モ近ヘ豊川より一の橋の川に近源清ありこの川又浦モ
カニ今日御喜を出モシテ御ひしも今も御喜の事
モ

○大窟西向天満宮祭礼
別當大聖院隔年少行
セシムキ
セツイハ九月廿八日
イツヘ
セツイハ廿八日より近辺の振ひ大方を以て町に持り物

○南八町坂の雜室太神宮祭礼等のり廿六日より十二月廿九日
○石川妙まち兩山忌 天國上人の忌あり

納又除人の納もとねぬよりてよとくに小きハ七八す大かるハ支除よ乃よ

初山 又年月
山と云 六月廿八日
又年月
道七月朔日
相の山 又年月
の山 盒巻追云
アヒ
ボン

良兵備都の閑基中てまへ云宗焉此に屬す
内百石不勅口絆料別處八大方防舍よりよ十二坊組坊六軒外よ大勅を守
候あり
内百石不勅口絆料十八石頑學料別處八大方防舍よりよ十二坊組坊六軒外よ大勅を守
候あり

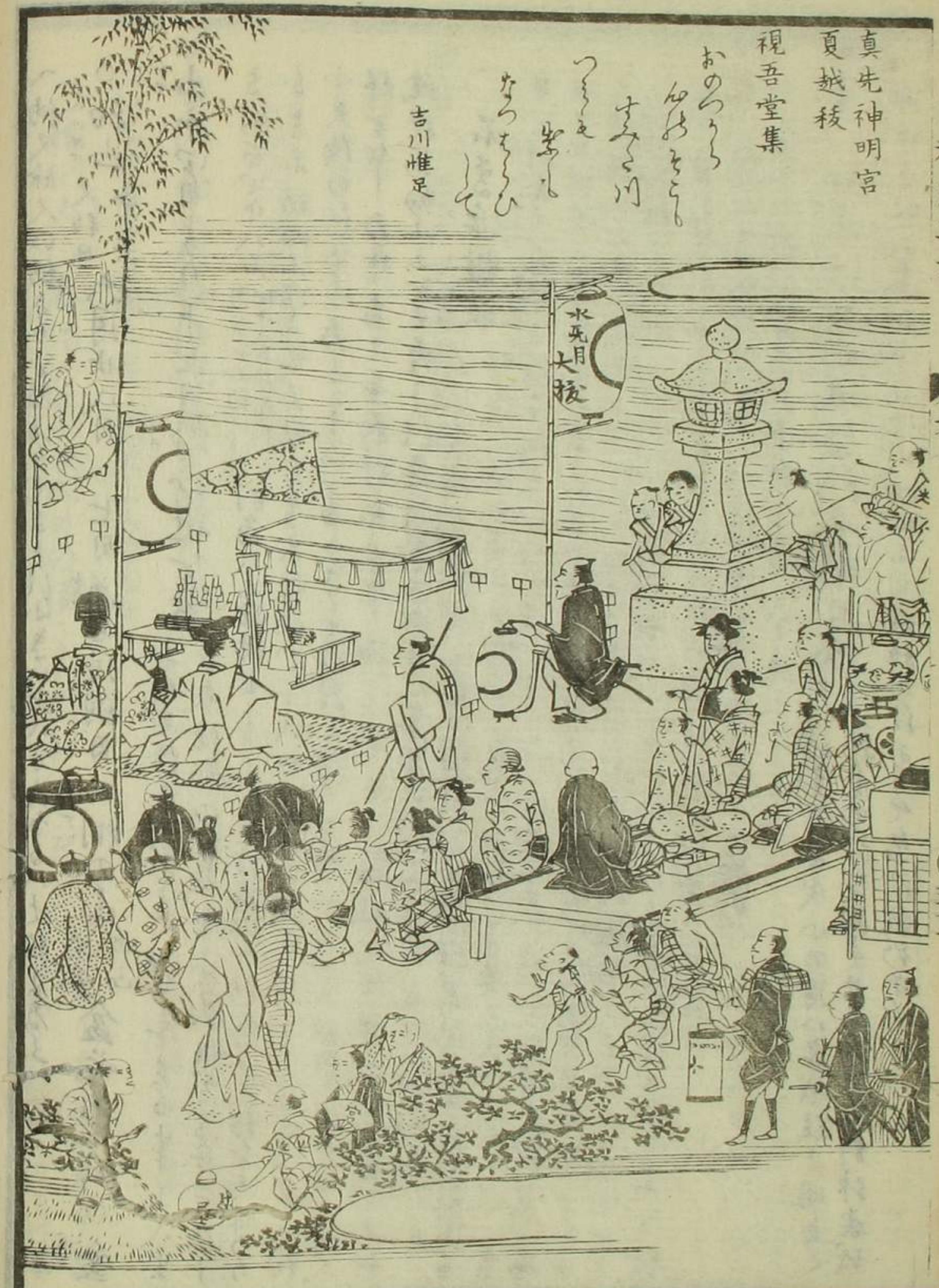
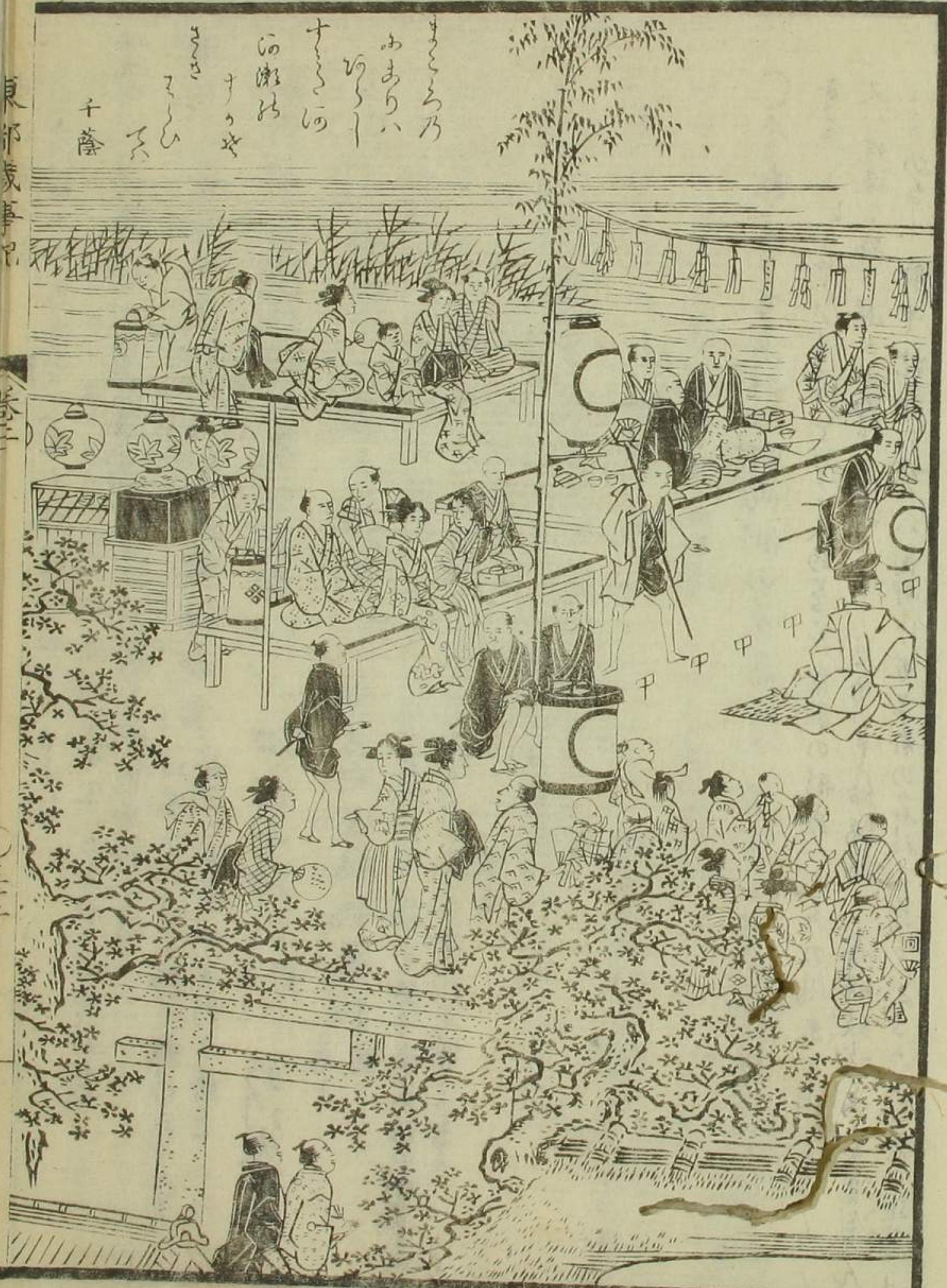
天狗の社ありたる事も山同又限りて登る事とあらず故に遠きより傍人
乃体高き金剛山來りて至る所也へるやう也。梅竹少く満るを遊ひ乃行
其外山の里ふと云ふと山間の谷に登る事、二ノ唐の山也。

石を取
大山系の者六河より出で城離をえ後禅定寺又主たる者ある
時も隣の者川よりひりてあはれむるを毎よきもあべと持くる

云さんげく ふらんざいゆ わくよもぐいこんぐう どうじ 大山 大聖不動明王 不等
大持鬼大天狗小天狗とひ文と唱ふるやさんげく 懲愧懺悔ありくらんざいゆ

相罪障たり。おもむろに大峯ハ大なり。こゝく温まとも伝の心とめうを納
ヌ。ゆくらんうのみ中人ひトのよきやうてひよの人にゆーとづくり
日○湯沸靈雲も聞ふ忌。岡山淨嚴^{ワタツカ}和尚の多よりて修持

東京に渡り法事の小遣物をも申さう院
日 佃島住吉明神祭礼今明日修行
神主平尾氏小の日ハ名越後と同日之
鈴虎の日と後モ廿九日未の刻作寒成



真先神明宮

夏越祓

視吾堂集

○又川勝玉も此拂古文書を外諸什事と綴せしむ

廿九日 ○ 沙草寺 ウラボンエ 盆會 一山の鬼徒観世音堂あつまひ修祓あり
雷神門の布よ施廢鬼棚と役く

は希の門辺よ於て執事あ
群集も玄の本釣よ絶え

御守社明神
芝神明宮
御守社明神
御守社明神
御守社明神

多賀明神社
久須天神宮
谷下
飯田町世総稻荷社

支外諸神社より神を経て奉り神樂舞があり神を経て事の舞
論と云ふ。の如き扇の如き木と並んでおもに其の如きもの

○は日唐人紙とゆく衣類の形よ切て振りゆとり川へ投毛

○油糸寺花構
巴の音本堂へか後大前起坐
咽散花経版泥瓦被花燒毛のゆく

○今より七月晦日まで近家にて外は燈籠桃灯等燒き高坊少く
法のう

○今朝より吉永の町西側の茅尾より寄毎よりの溝井に生
育森と、その多くは山の邊に多く人馬を走禽獸の形威、其の風景と並り都

又、往還は跡を遊ぶの乃は正月より見物のまゝ紛輶轡クスイト毎驛鼓吹クスイにて繫焉クシヤニ

摩門教の支派、角田門更なる五派と併びて四恩の追薦

卷之三

さて享保十三年の七月、この切子をもううらと出でたり。又まほ破物とくへる者の
如き始めて今の大壯觀と云ふまことに玉葉うけ、結書よ出、世への物と不

大日以ト 不思議
ノテ解ニテ深く考究又体ナムレアリ是と實する。達人茶明
ノ道場を少翁天の同體ナリ。ウリヤ
タメハシタニ。每家有之。ハソシヒ。トテ其葉あり。不產。

赤坂溜池 不思又傳て
同却门外 市谷却门外 牛の却門外 游上寺

又化のまよは花の奇品と號ぶ。ナサニエル・ブッシュも隨てかく。又培植。ナサニエル・

巧みにて手懸刀色いろする物也。都鄙の奸人あまびらかに巡査をまけ早且ア
數多の金と機知あり優劣ときどきあくわくに名と滿けぬひよしも形ばかりと云ふ

えくは黒松のひやうて愛玩すに足りず、是年の夏より文政の始より絶し、
すなり○はをぬ鬼神極美ありく

武昌野々自然野生の草なり今ハ烟工假り春分種を播一夏同白花成
実○少く形核一枚ふ少くか一小粒より多よりて根を掘り行工

能生
御入山の東に都繫花よりは室塗の絹布女子の如きで当流行せり中世
江戸等にて名物となりぬ今を生むと置限ども一廻り南之草至終より多々運送す

りと山根と稱す多餘筋より出肉す。疊側要則、南之羽則最上より出るとよとすと又

古今もくさみのひりくわ多くもくづのまくわあれどぞ乃よとく今

小叶小町集しきのとおとくきくはしらまみのまくわぬまもむま

○出處縁目ごとにゆる出處の細子よまとつて医療なりありのあり

経かき元のゆくや志のゆんうれいよしのこくは光後

○手於ひ殊どうううわくうき桃打を外もの焼薪桃打林に會自あふ集入

江戸歳事記卷之二終

